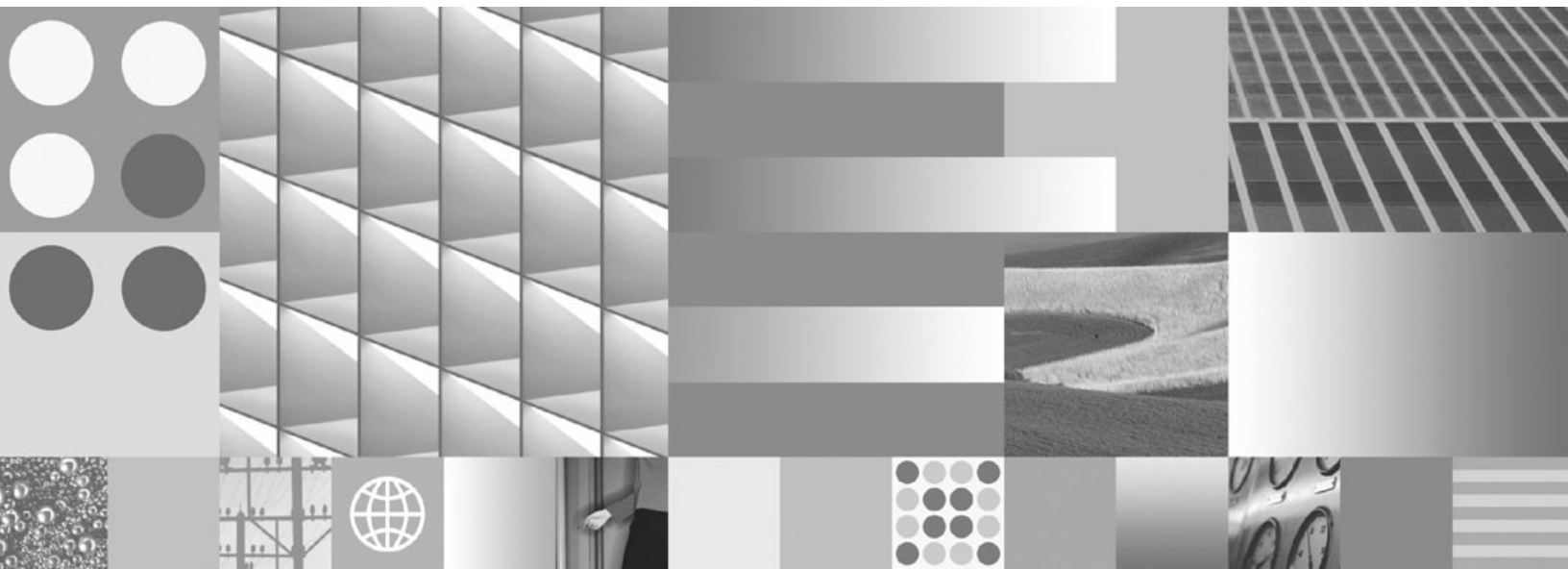


エンタープライズ・サーチ インストール・ガイド



エンタープライズ・サーチ インストール・ガイド

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、79 ページの『特記事項および商標』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM OmniFind Enterprise Edition (製品番号 5724-C74) のバージョン 8、リリース 5、モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： GC18-9282-04
IBM OmniFind Enterprise Edition
Version 8.5
Installation Guide for Enterprise Search

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

目次

ibm.com および関連リソース	v	インストール後の作業	47
エンタープライズ・サーチのインストール	1	エンタープライズ・サーチ用の Windows サービスの構成	47
エンタープライズ・サーチをインストールするための計画	3	クローラーのセットアップ要件	48
インストール・タイプの決定	4	DB2 Enterprise Server のライセンス・キーの登録	50
エンタープライズ・サーチのメモリー・モデル	6	エンタープライズ・サーチの無限値の設定	51
エンタープライズ・サーチをインストールするためのオペレーティング・システムの準備	7	公開 Web サイトにアクセスするためのインフォメーション・センターのセットアップ	53
AIX の準備	8	コレクション・データの CIFS ドライブへのマッピング	54
Solaris オペレーティング環境の準備	9	エンタープライズ・サーチ・システムの開始	57
Windows の準備	9	ファースト・ステップ・プログラムの開始	58
WebSphere Information Integrator Content Edition との統合	11	インフォメーション・センターの開始と停止	59
インストールのための情報の取得	12	エンタープライズ・サーチの除去	63
インストール・ディレクトリーとデータ・ディレクトリー	12	AIX, Linux, および Solaris システムからのエンタープライズ・サーチの除去	63
エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワード	13	Windows システムからのエンタープライズ・サーチの除去	64
インストール情報フォーム	15	インストールの問題のトラブルシューティング	67
インストール・モード: グラフィック、サイレント、およびテキスト	17	インストールの間にスペース不足になった	67
サイレント・インストールの応答ファイル	19	症状	67
OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 へのアップグレード	23	問題の解決	67
WebSphere Application Server の古いバージョンの除去	23	インストール時に ArrayIndexOutOfBoundsException が発生	67
エンタープライズ・サーチ以外のアプリケーションでの WebSphere Application Server の使用	24	症状	67
エンタープライズ・サーチのアップグレード後のコレクションの更新	25	原因	68
エンタープライズ・サーチのインストール 27		問題の解決	68
シングル・サーバー・インストールの概要	27	AIX, Linux, および Solaris に前提ソフトウェアがインストールされたあとインストールが停止する	68
シングル・サーバーへのエンタープライズ・サーチのインストール	28	症状	68
2 サーバー・インストールの概要	30	原因	68
2 サーバー・インストールでのクローラー、索引、および検索コンポーネントのインストール	31	問題の診断	68
2 サーバー・インストールの場合の第 2 の検索サーバーのインストール	34	問題の解決	68
4 サーバー・インストールの概要	37	Linux でのインストールが検証中に停止	69
4 サーバー・インストールの場合のクローラー・サーバーのインストール	39	症状	69
4 サーバー・インストールでの検索サーバーのインストール	41	原因	69
4 サーバー・インストールの場合の索引サーバーのインストール	44	問題の解決	69
		Windows へのインストールまたは開始で問題がある	70
		症状	70
		問題の解決	70
		Windows に WebSphere Application Server をインストールできない	70
		症状	70
		原因	71
		問題の解決	71

WebSphere Application Server がインストールされ、 CD に関するプロンプトが表示される	72
症状	72
原因	72
問題の解決	72
WebSphere Application Server でエンタープライズ・ サーチ・アプリケーションのセキュリティー上の役 割が正しく設定されていない	72
症状	72
原因	72
問題の解決	73
フィックスパックの除去プログラムを完了前にキャン セルする	73

症状	73
問題の解決	73
エンタープライズ・サーチの資料	75
アクセシビリティ機能	77
特記事項および商標	79
特記事項	79
商標	81
索引	83

ibm.com および関連リソース

製品サポートおよび文書は、ibm.com® より入手できます。

サポートおよび支援

製品サポートを Web 上で受けられます。

IBM® OmniFind™ Enterprise Edition

<http://www.ibm.com/software/data/enterprise-search/omnifind-enterprise/support.html>

IBM OmniFind Discovery Edition

<http://www.ibm.com/software/data/enterprise-search/omnifind-discovery/support.html>

IBM OmniFind Yahoo! Edition

<http://www.ibm.com/software/data/enterprise-search/omnifind-yahoo/support.html>

インフォメーション・センター

Web ブラウザーによる Eclipse ベースのインフォメーション・センターで製品資料を表示できます。インフォメーション・センターは、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/discover/v8r5m0/> にアクセスしてご覧ください。

PDF 資料

ご使用の OS で Adobe® Acrobat Reader を使用して、オンラインで PDF 資料を閲覧できます。ご使用の OS に Acrobat Reader がインストールされていない場合は、Adobe の Web サイト <http://www.adobe.com> からダウンロードできます。

PDF 資料の Web サイトを以下に示します。

製品	Web サイト・アドレス
OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5	http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=63&uid=swg27010938
OmniFind Discovery Edition バージョン 8.4	http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=3035&uid=swg27008552
OmniFind Yahoo! Edition バージョン 8.4	http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=3193&uid=swg27008932

エンタープライズ・サーチのインストール

IBM OmniFind Enterprise Edition のインストール・プログラムを実行して、新規のエンタープライズ・サーチ・システムをインストールするか、バージョン 8.4 のエンタープライズ・サーチ・システムをバージョン 8.5 にアップグレードすることができます。

製品パッケージに含まれる必要なソフトウェア

エンタープライズ・サーチ製品には、WebSphere® Application Server が必要です。WebSphere Application Server がまだインストールされていない場合、エンタープライズ・サーチのインストール・プログラムでバージョン 6.1 をインストールできます。エンタープライズ・サーチに必要な WebSphere Application Server ソフトウェアをインストールするには、この方法を推奨します。

WebSphere Application Server のサポートされるバージョンがインストールされている場合、インストール・プログラムはインストール・パスの入力を要求してきますが、バージョン 6.1 はインストールしません。パフォーマンスおよびその他の拡張機能を活用するために、WebSphere Application Server を手動でバージョン 6.1 にアップグレードしてから、エンタープライズ・サーチのインストール・プログラムを実行する場合があります。製品パッケージでは、WebSphere Application Server 基本製品および必要な補助ソフトウェア (IBM HTTP Server および Web サーバー・プラグイン) 用の CD および電子イメージが提供されます。

エンタープライズ・サーチで使用できる WebSphere Application Server のバージョンについては、<http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=63&swg27010937>を参照してください。

製品パッケージに含まれるオプション・ソフトウェア

エンタープライズ・サーチの製品パッケージには、WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.4 が含まれています。WebSphere Information Integrator Content Edition がまだインストールされていない場合、エンタープライズ・サーチのインストール・プログラムでバージョン 8.4 をインストールできます。

WebSphere Information Integrator Content Edition の前のバージョンがインストールされていて、エンタープライズ・サーチにバージョン 8.4 コネクターを使用したい場合、WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.4 に手動でアップグレードする必要があります。インストール手順については、WebSphere Information Integrator Content Edition インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/ce/v8r4/>) を参照してください。

エンタープライズ・サーチ製品パッケージには、手動でインストールできる以下のオプション・ソフトウェアが含まれます。

- DB2® Enterprise Server Edition バージョン 9.1 (Linux®, UNIX®, および Windows®版)
- WebSphere Federation Server バージョン 9.1.1

重要: DB2 Enterprise Server Edition をインストールする場合、DB2 製品のライセンス・キーの登録についてインストール後の手順を参照してください。

情報とサポート

情報を取得したり、システム要件の詳細な情報とサポートされるデータ・ソースのタイプについて知るには、以下の Web サイトを参照してください。

- OmniFind Enterprise Edition Support
- OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 のシステム要件
- OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 インフォメーション・センター
- OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 PDF 文書

関連概念

- 11 ページの『WebSphere Information Integrator Content Edition との統合』
- 23 ページの『OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 へのアップグレード』

関連タスク

- 3 ページの『エンタープライズ・サーチをインストールするための計画』
- 27 ページの『エンタープライズ・サーチのインストール』
- 63 ページの『エンタープライズ・サーチの除去』

関連資料

- 67 ページの『インストールの問題のトラブルシューティング』

エンタープライズ・サーチをインストールするための計画

エンタープライズ・サーチのソフトウェアをインストールする前に、サポートされるオペレーティング・システム、必要なソフトウェア、および十分なメモリーとハード・ディスク・スペースがあることを確認してください。

また、サーバーについての情報を記録するために、インストール・フォームを印刷してください。

エンタープライズ・サーチをインストールする前に、次の事項を明確にしてください。

- 新規にソフトウェアをインストールするのか、それともアップグレードするのか。

初めてエンタープライズ・サーチ・ソフトウェアをインストールする場合は、1つのサーバーか、2つのサーバーか、4つのサーバーにインストールするかを決定します。これ以外の構成はサポートされていません。4ページの『インストール・タイプの決定』を参照してください。

エンタープライズ・サーチの新しいバージョンにアップグレードする場合は、23ページの『OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 へのアップグレード』を参照してください。

- システムが必要なオペレーティング・システム、ハードウェア、およびディスク・スペースの要件を満たしているか。 OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 のシステム要件を参照してください。
- 十分なメモリーがあるかどうか。システム環境に従って、パフォーマンスを最適化するために、インストール中にメモリー・モデルを選択できます。6ページの『エンタープライズ・サーチのメモリー・モデル』を参照してください。
- 必要なソフトウェアのインストール方法: エンタープライズ・サーチのインストール・プログラムを使用するのか (推奨される方法)、あるいは、必要なソフトウェアを自分でインストールするのか。

インストール・プログラムは、WebSphere Application Server CD の挿入を求めるプロンプトを出します。この CD がない場合、電子イメージの場所を指定することができます。

必要なソフトウェアを手動でインストールする場合は、必ずサポートされるバージョンをインストールするようにしてください。必要なソフトウェアをインストールしてから、エンタープライズ・サーチのソフトウェアをインストールします。

- どの方式でインストール・プログラムを実行するか。エンタープライズ・サーチのグラフィカル・インターフェース、テキストまたはコンソール・インターフェース、または、応答ファイル (サイレント・インストール) を使用して、インストールできます。17ページの『インストール・モード: グラフィック、サイレント、およびテキスト』を参照してください。

関連概念

『インストール・タイプの決定』

11 ページの『WebSphere Information Integrator Content Edition との統合』

17 ページの『インストール・モード: グラフィック、サイレント、およびテキスト』

23 ページの『OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 へのアップグレード』

関連タスク

7 ページの『エンタープライズ・サーチをインストールするためのオペレーティング・システムの準備』

12 ページの『インストールのための情報の取得』

27 ページの『エンタープライズ・サーチのインストール』

関連資料

15 ページの『インストール情報フォーム』

インストール・タイプの決定

OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 を 1 台、2 台、または 4 台のサーバーにインストールできます。

シングル・サーバー・インストール

シングル・サーバー・インストールは、エントリー・レベルまたは中小規模ビジネスのソリューションに適した選択です。

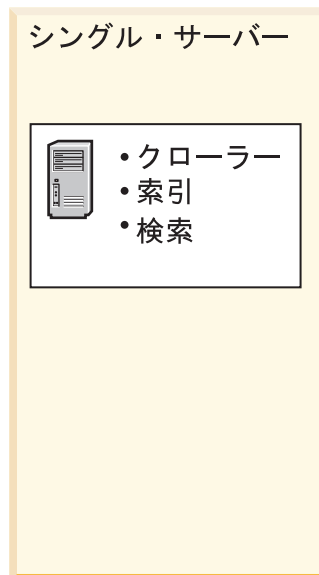


図 1. シングル・サーバー構成

2 サーバー・インストール

2 サーバー・インストールは、もう 1 つの検索コンポーネントを別のサーバーにインストールすることによって、スケーラビリティの向上とフェイルオーバー・サポートを提供します。

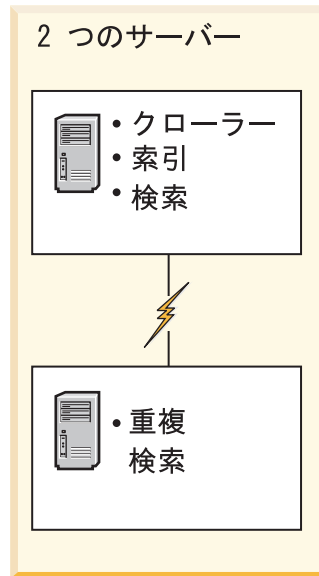


図 2. 2 サーバー構成

4 サーバー・インストール

4 サーバー・インストールは、高性能な実動システムを持つ大規模エンタープライズをサポートします。4 サーバー・インストールでは、索引付けコンポーネントが 1 つのサーバーに、文書をクローリングするソフトウェアがもう 1 つのサーバーに、検索コンポーネントが 2 つの追加サーバーにそれぞれインストールされます。

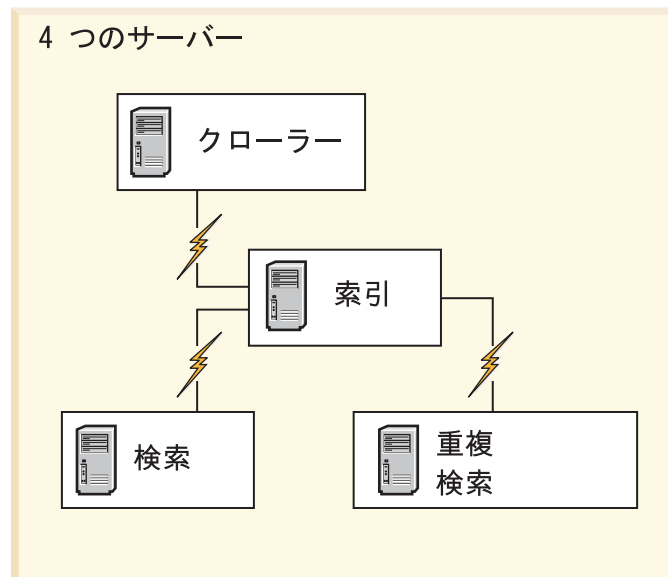


図 3. 4 サーバー構成

関連概念

27 ページの『シングル・サーバー・インストールの概要』

30 ページの『2 サーバー・インストールの概要』

37 ページの『4 サーバー・インストールの概要』

関連タスク

3 ページの『エンタープライズ・サーチをインストールするための計画』

エンタープライズ・サーチのメモリー・モデル

エンタープライズ・サーチをインストールする際、予期されるワークロードに適したメモリー構成を選択します。

パフォーマンスを最適化するために、小規模、中規模、および大規模のエンタープライズ・サーチ・システム用に、それぞれ別のメモリー構成をインストールします。

選択するメモリー・モデルと、エンタープライズ・サーチ・システムにあるサーバーの数との間に相関関係を持つ必要はありません。例えば、シングル・サーバーのインストールでは大きなメモリー所要量になり、マルチサーバーのインストールではすべてのサーバーにまたがって小さなメモリー所要量になります。

エンタープライズ・サーチを 2 つまたは 4 つのサーバーにインストールする場合、必ずすべてのサーバーで同じメモリー・モデルを指定してください。以下のガイドラインを使用して、エンタープライズの適切な選択を決定します。この情報はガイドラインとしてのみ用意されたものです。実際の要件はご使用のシステム構成により異なります。

一般概念:

以下の概念を読んでから、システムの予想されるサイズおよびワークロードを評価してください。

文書の合計数

これは、コレクションの数を考えない、エンタープライズ・サーチ・システムにある文書の合計数の見積もりです。

最大ページ・サイズ

これは単一文書の最大サイズの見積もりです。

アクティブ・コレクション

これは同時にアクティブであるコレクションの数の見積もりです。アクティブ・コレクションは、1 つで、そのコレクションでは、少なくとも 1 つのクローラー、パーサー、および検索サーバーがアクティブです。

メモリー

これはエンタープライズ・サーチを自動的に実行するのに必要なメモリー量の見積もりです。

索引作成

これは同時に処理できる索引作成の数の見積もりです。

検索処理

これは検索サーバーごとの 1 秒当たりの照会数の見積もりです。これはコレクションごとに処理される照会の数ではありません。

メモリー・モデル:

小規模 小規模メモリー・モデルはエントリー・レベル・ソリューションに適してい

ます。また、エンタープライズ・サーチをノートブック・コンピュータで、またはデモンストレーション目的で実行する場合に適しています。小規模システムはおおよそ以下のワークロード見積もりのようになります。

文書の合計数: 100 000
最大ページ・サイズ: 1 MB
アクティブ・コレクション: 1
メモリー (サーバーごと): 2 GB RAM
CPU の数 (サーバーごと): 1 または 2
索引作成: 一度に 1
検索処理: 1 秒当たり 1 照会

中規模 中規模メモリー・モデルは中規模のサイズのソリューションに適しています。例えば、これはエンタープライズ・サーチを 1 つか 2 つのサーバーで実行している場合、適切な選択と言えます。中規模システムはおおよそ以下のワークロード見積もりのようになります。

文書の合計数: 2 000 000
最大ページ・サイズ: 30 MB
アクティブ・コレクション: 2
メモリー (サーバーごと): 4 GB RAM
CPU の数 (サーバーごと): 2 または 4
索引作成: 一度に 1
検索処理: 1 秒当たり 5 照会

大規模 大規模メモリー・モデルは大規模のエンタープライズ・ソリューションに適しています。例えば、これはエンタープライズ・サーチをマルチサーバーで実行している場合、適切な選択と言えます。大規模システムはおおよそ以下のワークロード見積もりのようになります。

文書の合計数: 20 000 000
最大ページ・サイズ: 30 MB
アクティブ・コレクション: 5
メモリー (サーバーごと): 8 GB RAM
CPU の数 (サーバーごと): 4
索引作成: 一度に 2
検索処理: 1 秒当たり 8 照会

関連タスク

12 ページの『インストールのための情報の取得』

エンタープライズ・サーチをインストールするためのオペレーティング・システムの準備

エンタープライズ・サーチに必要なソフトウェアのインストール前に、オペレーティング・システムに必要なパッケージ、修正、およびパッチがすべてインストール要件で示された正しい保守レベルで含まれていることを確認してください。

ファイアウォール: マルチサーバー・インストールでは、エンタープライズ・サーチをファイアウォールが使用可能に設定されているオペレーティング・システムにインストールする場合、エンタープライズ・サーチ・サーバー間で通信が行えるよ

う、ファイアウォール・ソフトウェアを使用不可に設定する必要があります。どんな場合にも、エンタープライズ・サーチ間でファイアウォールを使用可能にすることはできません。

シングル・サーバー・インストールでもマルチサーバー・インストールでも、ファイアウォールが有効になっているオペレーティング・システムにエンタープライズ・サーチがインストールされている場合には、エンタープライズ・サーチ・クローラーは、トラステッド・ゾーンのデータのみをクロールすることができます。

関連タスク

3 ページの『エンタープライズ・サーチをインストールするための計画』

『AIX の準備』

9 ページの『Solaris オペレーティング環境の準備』

9 ページの『Windows の準備』

AIX の準備

エンタープライズ・サーチをインストールする前に、AIX® のバージョンに必要なすべての保守修正を適用する必要があります。

必要な保守レベルおよび修正の適用方法については、OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 のシステム要件を参照してください。

始める前に

OmniFind Enterprise Edition は AIX オペレーティング・システムでは 64 ビット・モードで実行するため、64 ビット・アプリケーションを実行するように AIX を正しく構成する必要があります。カーネルを 32 ビットまたは 64 ビットのいずれのモードで実行しても、64 ビット・アプリケーションの実行可能性には影響がありません。OmniFind Enterprise Edition の場合、使用するカーネルには関係がありません。ただし、64 ビット・アプリケーション環境を使用可能にする必要があります。さもないと、OmniFind Enterprise Edition は正しく機能しません。64 ビット・モードが使用可能になるまで、エンタープライズ・サーチ・システムを開始しないでください。

AIX で 64 ビット・アプリケーション環境を有効とするには、次のようにします。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. **smitty** コマンドを実行します。
3. 「システム環境 (System Environments)」に進みます。
4. 「64 ビット・アプリケーションを有効にする (Enable 64-bit Application Environment)」に進み、「すぐに有効にする (Enable Now)」を選択します。

DB2 ソースのクロール

AIX サーバーで DB2 ソースをクロールする計画がある場合は、環境変数 `EXTSHM=ON` を設定して、エクスポートする必要があります。例えば、次の行を `db2_inst_home/sql/lib/userprofile` ファイルに追加します。このファイルが存在しない場合、許可 755 で `userprofile` ファイルを作成して、以下の行を指定します。


```
EXTSHM=ON
export EXTSHM
```

詳しくは、<http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=216&uid=swg21079674>を参照してください。

関連タスク

7 ページの『エンタープライズ・サーチをインストールするためのオペレーティング・システムの準備』

関連資料

67 ページの『インストールの問題のトラブルシューティング』

Solaris オペレーティング環境の準備

エンタープライズ・サーチをインストールする前に、Solaris のバージョンに必要なすべてのパッチを適用しておく必要があります。

必要なパッチおよびそのパッチが適用されていることの確認方法については、OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 のシステム要件を参照してください。

関連タスク

7 ページの『エンタープライズ・サーチをインストールするためのオペレーティング・システムの準備』

関連資料

67 ページの『インストールの問題のトラブルシューティング』

Windows の準備

エンタープライズ・サーチのインストール・プログラムが使用する Windows API には正しく機能するために追加のユーザー権限が必要です。これらのユーザー権限が付与されていない場合は、エンタープライズ・サーチのインストールは失敗します。

このタスクについて

エンタープライズ・サーチをインストールするのに使用するユーザー ID がドメインに属している場合、ドメイン・ポリシーは、ローカル・ユーザー設定をオーバーライドします。ユーザー権限をユーザー ID に割り当てる前に、ドメインで必要な権限のいずれも禁止されていないことを確認してください。例えば、ドメインでオペレーティング・システムの一部として機能する権限が禁止されている場合は、ユーザーはその権限を禁止されます。

これらのユーザー権限が正しく割り当てられていないために、エンタープライズ・サーチのインストールが失敗した場合は、エンタープライズ・サーチ・ソフトウェアを除去して、正しいユーザー権限をエンタープライズ・サーチをインストールするのに使用するユーザー ID に割り当ててから、インストール・プログラムを再度実行してください。

使用する Windows オペレーティング・システムがサポートされるバージョンであるかを確認する必要があります。詳しくは、OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 のシステム要件を参照してください。

手順

エンタープライズ・サーチをインストールするのに使用するユーザー ID には、Windows の管理者権限および追加ユーザー権限が必要です。これらの権限を付与するには、次のようにします。

1. Windows で、「コントロール パネル」 → 「ユーザー アカウント」とクリックします。
2. エンタープライズ・サーチをインストールするのに使用するユーザー ID に管理者権限があることを確認します。
3. Windows で、「コントロール パネル」 → 「管理ツール」 → 「ローカル セキュリティ ポリシー」 → 「ローカル ポリシー」 → 「ユーザー権利の割り当て」を開きます。
4. エンタープライズ・サーチをインストールするのに使用するユーザー ID に以下のユーザー権限があることを確認します。
 - 「オペレーティング システムの一部として機能」
 - 「メモリ内のページのロック」
 - 「トークン オブジェクトの作成」
 - 「プロセス レベル トークンの置き換え」
 - 「認証後にクライアントを偽装」
 - 割り当て量の増加 (Windows 2003 では、このオプションは「プロセスのメモリ クォータの増加」となっています。)
 - 「サービスとしてログオン」

WebSphere Application Server をサービスとして実行: Windows では、OmniFind Enterprise Edition インストール・プログラムに、WebSphere Application Server および IBM HTTP Server をサービスとしてセットアップするためのオプションがあります。これらのサービスは、OmniFind Enterprise Edition を使用して WebSphere Application Server をインストールする場合にのみセットアップされます。

- WebSphere Application Server をサービスとしてセットアップする場合は、Windows サービスと関連付けられている WebSphere Application Server ユーザー ID に適切な管理権限とユーザー権限があることを確認してください。WebSphere Application Server ユーザー ID は、以下のユーザー権限を持つ管理者 ID にする必要があります。
 - 「オペレーティング システムの一部として機能」
 - 「サービスとしてログオン」
- WebSphere Application Server をサービスとしてセットアップしない場合は、WebSphere Application Server のインストールは正常に完了します。WebSphere Application Server がサービスとして実行しない場合、WebSphere Application Server ユーザー ID の権限をセットアップする必要も、そのユーザー権限を検証する必要もありません。

関連トラブルシューティング情報

70 ページの『Windows に WebSphere Application Server をインストールできない』

関連概念

13 ページの『エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワード』

関連タスク

7 ページの『エンタープライズ・サーチをインストールするためのオペレーティング・システムの準備』

47 ページの『エンタープライズ・サーチ用の Windows サービスの構成』

関連資料

67 ページの『インストールの問題のトラブルシューティング』

WebSphere Information Integrator Content Edition との統合

WebSphere Information Integrator Content Edition データ・ソースを検索する計画がある場合は、エンタープライズ・サーチのインストール・プログラムで必要なソフトウェアをインストールできます。

Content Edition のクローラーを使用して、Hummingbird、FileNet、Documentum などの WebSphere Information Integrator Content Edition のデータ・ソースの様々なタイプをクロールできます。サポートされるデータ・ソースのリストについては、OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 のシステム要件を参照してください。

WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.4 がインストールされている場合

WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.4 がインストールされている場合、このソフトウェアをエンタープライズ・サーチに使用できます。

WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.3 がインストールされている場合

WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.3 がインストールされている場合、このソフトウェアをエンタープライズ・サーチに使用できます。ただし、バージョン 8.4 コネクタ・ソフトウェアを使用したい場合、バージョン 8.4 に手動でアップグレードする必要があります。WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.4 用の製品 CD および電子配布イメージは、エンタープライズ・サーチの製品パッケージに含まれています。

WebSphere Information Integrator Content Edition がインストールされていない場合

前に WebSphere Information Integrator Content Edition をインストールしていない場合、エンタープライズ・サーチをインストールする際に、オプションとして WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.4 をインストールできます。マルチサーバー・インストールの場合、クローラー・サーバーをインストールする際に、このオプションを選択します。

インストール・プログラムは、製品 CD または電子配布イメージのパスの指定を求めるプロンプトを出します。

エンタープライズ・サーチのインストール時に、WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.4 ソフトウェアをインストールするオプションを選択しない場合、後から手動でインストールできます。

関連概念

 Content Edition クローラー

関連タスク

3 ページの『エンタープライズ・サーチをインストールするための計画』

関連資料

48 ページの『クローラーのセットアップ要件』

インストールのための情報の取得

エンタープライズ・サーチのインストール・プログラムを実行する際、オペレーティング・システム環境および優先管理ユーザー ID 情報を用意します。

デフォルトのディレクトリー構造を使用しない場合は、インストール対象のインストール・ディレクトリーとデータ・ディレクトリーの場所を決定する必要があります。また、インストール・プログラムでエンタープライズ・サーチの管理アクティビティーのために使用するユーザー ID を作成するかどうか、または既存のユーザー ID を使用するかどうかを決定する必要があります。

インストールをする前に、システム・メモリー所要量と予期されるワークロードを評価する必要があります。パフォーマンスを最適化するために、インストール・プログラムによって、環境のために選択するメモリー・モデルに基づいた構成パラメーターを調整します。

インストール・プログラムを開始する前に、使用可能な必要情報があることを確認するために、インストール・フォームおよびエンタープライズ・サーチに使用する予定のサーバーに関するレコード情報を印刷します。

関連概念

『インストール・ディレクトリーとデータ・ディレクトリー』

13 ページの『エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワード』

6 ページの『エンタープライズ・サーチのメモリー・モデル』

関連タスク

3 ページの『エンタープライズ・サーチをインストールするための計画』

関連資料

15 ページの『インストール情報フォーム』

インストール・ディレクトリーとデータ・ディレクトリー

エンタープライズ・サーチをインストールするときに、インストール・プログラムはインストール・ディレクトリーとデータ・ディレクトリーを作成します。データ・ディレクトリー専用には、多くのディスク・スペースを割り当てる必要があります。

インストール・ディレクトリー

インストール・ディレクトリーには、システムの稼働中に変更されない実行可能ファイルおよびデフォルト・ファイルなどのファイルが含まれています。デフォルトのインストール・ディレクトリーを変更することはできますが、マルチサーバー・インストールの場合は、すべてのサーバーに同じインストール・ディレクトリー・パスを使用してください。インストール・プログラムによって、インストール・ディレクトリーのための `ES_INSTALL_ROOT`

環境変数が作成されます。資料では、インストール・ディレクトリーを表すものとして ES_INSTALL_ROOT を使用します。

インストール・ディレクトリーのデフォルト・パスは以下の通りです。

AIX: /usr/IBM/es
Linux: /opt/IBM/es
Solaris: /opt/IBM/es
Windows: C:%Program Files%IBM%es

AIX、Linux、または Solaris でデフォルト・パスを使用しない場合、インストール・ディレクトリーに指定するパス名にスペースが含まれることのないようにしてください。

データ・ディレクトリー

データ・ディレクトリーには、システムが定期的に更新する構成ファイルおよびデータ・ファイルが含まれています。ご使用のシステム上で最大のファイル区画またはディスク・スペースを、データ・ディレクトリー専用にご覧ください。インストール・プログラムによって、データ・ディレクトリーのための ES_NODE_ROOT 環境変数が作成されます。資料では、データ・ディレクトリーを表すものとして ES_NODE_ROOT を使用します。

データ・ディレクトリーのデフォルト・パスは、インストール・ディレクトリー内のサブディレクトリーのうち、エンタープライズ・サーチ管理者 ID に指定した ID と一致するサブディレクトリーにあります。管理者 ID として esadmin を指定すると、デフォルトのデータ・ディレクトリー・パスは次のようになります。

AIX: /usr/IBM/es/esadmin
Linux: /opt/IBM/es/esadmin
Solaris: /opt/IBM/es/esadmin
Windows: C:%Program Files%IBM%es%esadmin

AIX、Linux、または Solaris でデフォルト・パスを使用しない場合、データ・ディレクトリーに指定するパス名にスペースが含まれることのないようにしてください。

関連タスク

12 ページの『インストールのための情報の取得』

関連資料

15 ページの『インストール情報フォーム』

エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワード

エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワードは、すべてのエンタープライズ・サーチ・サーバーで同じでなければなりません。

エンタープライズ・サーチのインストール時に、エンタープライズ・サーチ管理者 ID として使用する既存のユーザー ID とパスワードを指定するか、インストール・プログラムにユーザー ID とパスワードを作成させることができます。インストール・プログラムでユーザー ID を作成すると、すべての必要なユーザー権限を割り当てます。既存のユーザー ID とパスワードを使用する場合は、エンタープライズ・サーチ管理者がシステムを適切に実行できるように、インストール・プログラムがそのユーザー ID のユーザー権限を変更します。

root アカウント

エンタープライズ・サーチ管理者 ID に既存のユーザー ID を指定する場合、指定するユーザー ID が root アカウントでないようにしてください。root 以外のアカウントを指定するか、インストール・プログラムにユーザー ID を作成させます。

特殊文字の制限

エンタープライズ・サーチ管理者 ID に既存のユーザー ID を指定する場合、その ID に英字、数字、および下線のみが含まれることを確認します。ユーザー ID には他の特殊文字は使用できません。

パスワード:

以下の特殊文字をパスワードに使用できます。これらの文字を使用するパスワードは、引用符で囲む必要があります。

! @ # \$ % ^ & * () - _ = + , . / < > ? .

AIX、Linux、または Solaris

特殊文字を使用する場合、パスワード全体を単一引用符で囲みます。例えば次のとおりです。

```
'mypwd@$%'
```

Windows

特殊文字を使用する場合、パスワード全体を二重引用符で囲みます。例えば次のとおりです。

```
"mypwd@$%"
```

Windows ドメイン ID

Windows にエンタープライズ・サーチをインストールし、エンタープライズ・サーチ管理者 ID に既存のユーザー ID を指定する場合、そのユーザー ID は、ローミング・プロファイルを使用する Windows ドメイン ID でないようにします。

Windows ドメインに属するローカル・ユーザー ID とドメイン ID の間には次のような違いがあります。

ローカル ID

ローカル・ユーザー ID の場合、ユーザーのローカル・プロファイルはローカル・コンピューターに保管されます。ローカル・ユーザー・プロファイルに対する変更は、その変更が行われたコンピューターに特有なものとなります。これは、エンタープライズ・サーチ管理者 ID として使用できる唯一のタイプのユーザー ID です。

ドメイン ID

ドメイン ID の場合、ユーザーのローカル・プロファイルのコピーが共有サーバーに保管されます。このプロファイルは、ローミング・ユーザー・プロファイルとも呼ばれ、ユーザーがネットワーク上のいずれのコンピューターにログオンしても必ずダウンロードされます。プロファイルへの変更は、ログオフ時にサーバー・コピーと同期されます。このタイプのプロファイルを使用するには、コンピューターが Windows ドメインまたは Active Directory に属している必要があります。エンタープライズ・サーチ管理者 ID は、このタイプのユーザー ID とすることはできません。

エンタープライズ・サーチ管理者 ID として使用するローカル・ユーザー ID をドメインに追加して、その ID 用のドメイン特権を取得することができます。ただし、ローカル・ユーザー ID をドメインに追加する場合、ドメインのセキュリティ権限がエンタープライズ・サーチに必要なローカル・ユーザー権限をオーバーライドすることのないようにする必要があります。


Windows ユーザー権限

エンタープライズ・サーチを Windows にインストールした場合、既存のユーザー ID をエンタープライズ・サーチ管理者 ID として指定しても、実行しているドメイン・ポリシーが重んじられて、エンタープライズ・サーチ・インストール・プログラムによっては変更されません。例えば、インストール・プログラムが、ユーザー ID にオペレーティング・システムの一部として機能する権限を付与しようとする。ドメイン・ポリシーがその権限を禁止する場合、そのユーザー ID には必要な権限がありません。ドメイン・ポリシーで、エンタープライズ・サーチ管理者 ID に必要な以下のユーザー権限を禁止していないことを確認してください。

- 「オペレーティング システムの一部として機能」
- 「メモリ内のページのロック」
- 「トークン オブジェクトの作成」
- 「プロセス レベル トークンの置き換え」
- 「認証後にクライアントを偽装」
- 割り当て量の増加 (Windows 2003 では、このオプションは「プロセスのメモリクォータの増加」となっています。)
- 「サービスとしてログオン」

これらのユーザー権限が正しく割り当てられていないために、エンタープライズ・サーチのインストールが失敗した場合は、エンタープライズ・サーチ・ソフトウェアを除去して、正しいユーザー権限をエンタープライズ・サーチをインストールするのに使用するユーザー ID に割り当ててから、インストール・プログラムを再度実行してください。

関連概念

 シングル・サーバー構成でのエンタープライズ・サーチ管理者パスワードの変更

 マルチサーバー構成でのエンタープライズ・サーチ管理者パスワードの変更

関連タスク

12 ページの『インストールのための情報の取得』

関連資料

『インストール情報フォーム』

インストール情報フォーム

インストール・プログラムを開始する前に、フォームを印刷して、各サーバーについての情報を記録できます。



マルチサーバー・インストール・チェックリスト:

インストール情報フォーム

このフォームを使用して、各サーバーごとに情報を記録してください。すべてのサーバーに、同じエンタープライズ・サーチ管理者 ID およびパスワードを使用してください。また、インストール・ディレクトリーはすべてのサーバーで同じでなければなりません。デフォルトのポート値は括弧内に表示されます。

インストール・ディレクトリー: _____

エンタープライズ・サーチ管理者 ID: _____



クローラー・サーバー

- ホスト名: _____
- ポート (6002): _____
- データ・ディレクトリー: _____
- エンタープライズ・サーチ・データ・ストアのポート (1527): _____



検索サーバー 1

- ホスト名: _____
- ポート (6002): _____
- データ・ディレクトリー: _____
- HTTP Server ポート (80): _____



検索サーバー 2

- ホスト名: _____
- ポート (6002): _____
- データ・ディレクトリー: _____
- HTTP Server ポート (80): _____



索引サーバー


- ホスト名: _____
- ポート (6002): _____
- データ・ディレクトリー: _____

図 4. インストール情報フォーム

関連概念

12 ページの『インストール・ディレクトリーとデータ・ディレクトリー』

13 ページの『エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワード』

 エンタープライズ・サーチのために使用される TCP ポート番号

関連タスク

3 ページの『エンタープライズ・サーチをインストールするための計画』

12 ページの『インストールのための情報の取得』

インストール・モード: グラフィック、サイレント、およびテキスト

エンタープライズ・サーチは、グラフィック・モード、テキスト・モード、コンソール・モード、またはサイレント・モードを使用してインストールできます。

エンタープライズ・サーチ・インストール・プログラムは、ユーザーに代わってほとんどの必要なソフトウェアをインストールします。エンタープライズ・サーチ・インストール・プログラムのプロンプトに応じて、該当する CD を挿入するか、電子イメージのパスを指定するだけです。

製品 CD のインストールまたは使用において問題が起きる場合は、他の方法で必要なソフトウェアをインストールできます。例えば次のとおりです。

- 必要なソフトウェア CD イメージをハード・ディスクにコピーします。次に IBM OmniFind Enterprise Edition CD を挿入します。必要なソフトウェア・イメージの場所を示すように要求するプロンプトが出されます。
- エンタープライズ・サーチ CD イメージをハード・ディスクにコピーできます。エンタープライズ・サーチ・インストール・プログラムをハード・ディスクのディレクトリーから開始し、インストール・ウィザードを使用して必要なソフトウェアをインストールします。

グラフィック・インストール

これは、標準的なインストール・オプションです。インストールを手動で行い、インストールをカスタマイズする場合は、このオプションを選択します。

重要: トルコ語のロケール設定でインストールを行うと、例外エラーが発生し、インストールは失敗します。システムのロケールを英語、もしくはトルコ語以外の言語に変更すれば、その言語でインストールを実行できます。インストールが完了したあと、ロケールをトルコ語に戻すことができます。

AIX、Linux、および Solaris

グラフィック・インストール・プログラムを開始するには、IBM OmniFind Enterprise Edition CD をマウントするか、システム上で CD イメージを見つけて、実行可能ファイルを実行します。

要件: korn または bash 以外のシェルを使用している場合は、インストール・プログラムを開始する前に、環境をセットアップする必要があります。

1. エンタープライズ・サーチ管理者のために使用されるユーザー ID を作成し、そのユーザー ID に以下のプロファイル変更を適用します。
2. 以下のサンプル・プロファイルに似た行を、シェルの開始時に実行されるプロファイルに追加します。

```
# OmniFind Start
if [ -f /home/esadmin/nodeinfo/esprofile ]; then
    echo "using esdata"
    . /home/esadmin/nodeinfo/esprofile
fi
# OmniFind End
```

このサンプル・プロファイルで、/home/esadmin/ は、エンタープライズ・サーチ・データ・ディレクトリー (ES_NODE_ROOT) を示します。インストール・プログラムを実行する時に、指定するパスがデータ・ディレクトリーのために指定するパスと一致していることを確認します。

Windows

グラフィック・インストール・プログラムを開始するには、IBM OmniFind Enterprise Edition CD を挿入するか、システム上で CD イメージを見つけます。

重要: Windows で、前提ソフトウェアの CD を挿入するときに、自動実行機能を抑止して、これらの製品のインストール・プログラムが自動的に開始しないようにする必要があります。自動実行を抑止するには、CD を挿入するときに、Shift キーを押したままにします。

サイレント・インストール

このオプションでは、テンプレートの応答ファイルを編集してインストール・プログラムでシステムをインストールおよび構成することにより、エンタープライズ・サーチをインストールすることができます。応答ファイル・テンプレートは、IBM OmniFind Enterprise Edition CD イメージのルート・ディレクトリーにあります。サイレント・モード・インストールでは、以下のパラメーターを使用します。

```
install_command -options response_file -silent
```

例えば次のとおりです。

```
./install-aix.bin -options aix_single_server.rsp -silent
./install-linux.bin -options linux_crawler_server.rsp -silent
./install-solaris.bin -options solaris_search_server.rsp -silent
install-win32_non_gui.exe -options win_single_server.rsp -silent
```

テキストまたはコンソール・モード

このオプションでは、インストール・プログラムをコンソールからテキスト・モードで実行できます。画面はテキストで表され、グラフィック・インストールと同じ情報のプロンプトが出されます。テキスト・モード・インストール・プログラムを開始するには、次のようにします。

IBM OmniFind Enterprise Edition CD を挿入またはマウントして、実行可能ファイルを実行します。次の例は、Linux におけるテキスト・モードでのインストール・プログラムの開始方法を示しています。

```
./install-linux.bin -console
```

Windows からアクセシビリティ・モードでインストールを実行することもできます。accessibility パラメーターを指定して、以下の実行可能ファイルを実行します。このコマンドは、テキスト・モードでインストールを開始します。

```
install-win32_non_gui.exe -accessibility
```

一時ディレクトリの変更

デフォルトの一時ディレクトリに十分なスペースがない場合は、インストール・プログラムの一時ディレクトリを変更できます。コマンド行からインストール・プログラムを開始する際、次のパラメーターを追加します。

```
-is:tempdir directory.
```

例えば、Windows では次のように入力します。

```
install-win32.exe -is:tempdir d:%temp
```

関連概念

『サイレント・インストールの応答ファイル』

関連タスク

3 ページの『エンタープライズ・サーチをインストールするための計画』

サイレント・インストールの応答ファイル

サイレント・インストールは、応答ファイルを必要とする無人インストールです。

エンタープライズ・サーチのサイレント・インストールを実行できます。例えば、インストールに立ち会えない場合やエンタープライズ・サーチを複数インストールする際にデフォルト・インストールを再利用できる場合などには、サイレント・インストールを選択します。

各応答ファイルには、必要なソフトウェアのインストール・オプションなども含めて、実施したいインストールのタイプに必要なオプションが含まれています。インストールを正常に行うために、テンプレートの応答ファイル内の各オプションに記載されているコメントを読み、それぞれのオプションに指定する値を理解してください。応答ファイルに入力するすべての値は、二重引用符 " " で囲む必要があります。

テンプレートの応答ファイルは、IBM OmniFind Enterprise Edition CD のルート・ディレクトリにあります。

バージョン 8.5 へのアップグレード: テンプレートの応答ファイルには、新規あるいは変更されたオプションが多数含まれています。この製品の前のバージョンで作成した既存の応答ファイルを再使用して、OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 をインストールするといったことはしないでください。サイレント・インストール・メソッドを使用したエンタープライズ・サーチ・システムのアップグレードに関する情報は、upgrade.rsp ファイルを参照してください。

重要: エンタープライズ・サーチ・インストール・プログラムを使用して WebSphere Application Server をインストールし、Windows ユーザー権限が使用不可であれば、WebSphere のインストールは失敗します。エンタープライズ・サーチ・インストール・プログラムは、WebSphere をサービスとしてセットアップするオプションを提供します。 WebSphere Application Server をサービスとして実行しないという選択をすれば、WebSphere Application Server のインストールは正常に完了します。ただし、Windows ユーザー権限を設定しなかった場合は、パスワードの

暗号化で問題が発生し、パスワードを設定できない可能性があります。WebSphere Application Server のユーザー ID のユーザー権限の設定については、70 ページの『Windows に WebSphere Application Server をインストールできない』を参照してください。

シングル・サーバー・インストールのテンプレートの応答ファイル

シングル・サーバー・インストールの場合、適切なテンプレートの応答ファイルを変更します。

AIX aix_single_server.rsp
Linux linux_single_server.rsp
Solaris solaris_single_server.rsp
Windows
win_single_server.rsp

2 サーバー・インストールのテンプレートの応答ファイル

2 サーバー・インストールの場合、クローラー、索引、および検索コンポーネントを持つサーバーのために適切なテンプレートの応答ファイルを変更します。

AIX aix_two_server_full.rsp
Linux linux_two_server_full.rsp
Solaris solaris_two_server_full.rsp
Windows
win_two_server_full.rsp

2 番目の検索コンポーネントを持つサーバーの場合、これらのファイルの 1 つを変更します。

AIX aix_search_server.rsp
Linux linux_search_server.rsp
Solaris solaris_search_server.rsp
Windows
win_search_server.rsp

4 サーバー・インストールのテンプレートの応答ファイル

4 サーバー・インストールの場合、索引、クローラー、および検索コンポーネントのために適切なテンプレートの応答ファイルを変更します。検索コンポーネントは 2 つの異なるサーバーにインストールするため、検索コンポーネントの応答ファイルは再利用できます。

AIX aix_index_server.rsp
aix_crawler_server.rsp
aix_search_server.rsp
Linux linux_index_server.rsp
linux_crawler_server.rsp
linux_search_server.rsp

Solaris solaris_index_server.rsp
solaris_crawler_server.rsp
solaris_search_server.rsp

Windows

win_index_server.rsp
win_crawler_server.rsp
win_search_server.rsp

関連概念

17 ページの『インストール・モード: グラフィック、サイレント、およびテキスト』

OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 へのアップグレード

OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.4 からバージョン 8.5 へのアップグレードのみが可能です。

現在 OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.3 を使用している場合は、まずエンタープライズ・サーチ・システムをバージョン 8.4 にアップグレードする必要があります。その後で OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 にアップグレードできます。




別のシステム構成にアップグレードすることはできません。

- 現在シングル・サーバーでエンタープライズ・サーチを実行している場合は、新規ソフトウェアをシングル・サーバーにインストールする必要があります。
- 現在 2 サーバー構成でエンタープライズ・サーチを実行している場合は、新規ソフトウェアを 2 台のサーバーにインストールする必要があります。
- 現在 4 サーバー構成でエンタープライズ・サーチを実行している場合は、新規ソフトウェアを 4 つのサーバーにインストールする必要があります。

OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 にアップグレードするには、いくつかのアップグレード手順があります。どの手順を選択するかは、システムにインストールされている前提およびオプションのソフトウェアのバージョンによって、また WebSphere Application Server をエンタープライズ・サーチ以外の目的に使用するかどうかによって異なります。

重要: クロール済みで解析が完了していない文書は、バージョン 8.5 のインストール時に移行されません。OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 インストール・プログラムを実行する前に、エンタープライズ・サーチの管理コンソールを使用して、パーサーのモニターを行い、解析待機中の文書がないことを確認します。

関連概念

-  [エンタープライズ・サーチ・システムのバックアップとリストア](#)
-  [エンタープライズ・サーチ・システムの管理](#)
-  [管理コンソールへのログイン](#)

関連タスク

- [47 ページの『インストール後の作業』](#)

WebSphere Application Server の古いバージョンの除去

WebSphere Application Server をエンタープライズ・サーチのみに使用する場合、OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 へのアップグレード後、このソフトウェアの古いバージョンを除去できます。

OmniFind Enterprise Editionバージョン 8.5 によってサポートされている古いバージョンの WebSphere Application Server (バージョン 5.1.1、5.1.1.3、または 6.0.2 など) をエンタープライズ・サーチにのみ使用する場合、エンタープライズ・サーチのインストール・プログラムを実行する前に WebSphere Application Server バージョン 6.1 にアップグレードできます。

OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 では WebSphere Application Server の古いバージョンを引き続き使用できます。ただし、パフォーマンスおよび他の改良点を利用するため、エンタープライズ・サーチ・システムのアップグレード時に、WebSphere Application Server をアップグレードできます。

エンタープライズ・サーチ・システムをアップグレードするには、次のようにします。

1. WebSphere Application Server バージョン 6.1 をインストールします。基本ソフトウェアおよび補助ソフトウェア (IBM HTTP Server および WebSphere Application Server プラグイン) を必ずインストールしてください。必要な WebSphere Application Server ソフトウェアは、OmniFind Enterprise Edition, バージョン 8.5 パッケージに組み込まれています。

バージョン 6.1 へのアップグレード方法については、WebSphere Application Server information center を参照してください。

2. OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 インストール・プログラムを実行して、エンタープライズ・サーチ・システムをアップグレードします。

制約事項: WebSphere Application Server バージョン 6.1 のパスを指定できるように、グラフィカル・メソッドまたはサイレント・メソッドを使用してエンタープライズ・サーチ・ソフトウェアをインストールする必要があります。システムをアップグレードするのにコンソール・モードは使用できません。

3. エンタープライズ・サーチ・ソフトウェアのインストール後、システムから古い WebSphere Application Server ソフトウェアを除去できます。

関連概念

1 ページの『エンタープライズ・サーチのインストール』

関連タスク

3 ページの『エンタープライズ・サーチをインストールするための計画』

エンタープライズ・サーチ以外のアプリケーションでの WebSphere Application Server の使用

WebSphere Application Server をエンタープライズ・サーチ以外のアプリケーションで使用する場合、WebSphere Application Server バージョン 6.1 にアップグレードして、アプリケーションをこの新しいバージョンに移行することができます。

OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 では WebSphere Application Server バージョン 5.1.1、5.1.1.3、および 6.0.2 を引き続き使用できます。ただしパフォーマンスおよび他の改良点を利用するため、WebSphere Application Server バージョン 6.1 にアップグレードしてください。

エンタープライズ・サーチ・システムをアップグレードするには、次のようにします。

1. WebSphere Application Server バージョン 6.1 にアップグレードします。基本ソフトウェアおよび補助ソフトウェア (IBM HTTP Server および WebSphere Application Server プラグイン) を必ずインストールしてください。必要な WebSphere Application Server ソフトウェアは、OmniFind Enterprise Edition, バージョン 8.5 パッケージに組み込まれています。

バージョン 6.1 へのアップグレード方法については、WebSphere Application Server information center を参照してください。

2. 他のすべてのアプリケーションを、WebSphere Application Server の前のバージョンからバージョン 6.1 へ移行します。
3. OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 インストール・プログラムを実行して、エンタープライズ・サーチ・システムをアップグレードします。

制約事項: WebSphere Application Server バージョン 6.1 のパスを指定できるように、グラフィカル・メソッドまたはサイレント・メソッドを使用してエンタープライズ・サーチ・ソフトウェアをインストールする必要があります。システムをアップグレードするのにコンソール・モードは使用できません。

重要: Solaris で WebSphere Application Server バージョン 6.0.2 を使用する場合、インストール・プログラムは、WebSphere Application Server 基本ソフトウェアがインストールされていることを検出するだけです。IBM HTTP Server および WebSphere Application Server プラグイン用に推奨するインストール・パスが正しくない場合もあります。WebSphere Application Server をインストールするためのプロンプトが表示されないようにするには、インストール・プログラムの実行時にこのパスが正しいことを確認します。

4. エンタープライズ・サーチ・ソフトウェアのインストール後、システムから古い WebSphere Application Server ソフトウェアを除去できます。WebSphere Application Server Network Deployment (Deployment Manager) をインストールしている場合は、それもシステムから除去できます。

関連概念

1 ページの『エンタープライズ・サーチのインストール』

関連タスク


3 ページの『エンタープライズ・サーチをインストールするための計画』


エンタープライズ・サーチのアップグレード後のコレクションの更新

製品の効力を十分に改善するには、OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 へアップグレードした後、コレクションにあるすべての文書を再クロール、再解析、および再索引付けする必要があります。

OmniFind Enterprise Edition の以前のバージョンで処理された文書に索引付けされて検索されると、検索結果に影響します。これは特に、N-gram トークン化機構を使用するコレクションにとって重要ですが、標準のトークン化を使用するコレクションにも重要です。

関連概念

 [エンタープライズ・サーチ・システムの管理](#)

 [管理コンソールへのログイン](#)

関連資料

[48 ページの『クローラーのセットアップ要件』](#)

エンタープライズ・サーチのインストール

OmniFind Enterprise Edition をインストールする前に、オペレーティング・システムには互換性があり、正しい更新が行われていることを確認し、インストールするサーバーの数と使用するインストール方式を決定します。

インストール・プログラムを開始する前に、使用できる必要な情報があることを確認するために、インストールの情報フォームに記入します。

関連概念

『シングル・サーバー・インストールの概要』

30 ページの『2 サーバー・インストールの概要』

37 ページの『4 サーバー・インストールの概要』

23 ページの『OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 へのアップグレード』

関連タスク

63 ページの『エンタープライズ・サーチの除去』

関連資料

15 ページの『インストール情報フォーム』

67 ページの『インストールの問題のトラブルシューティング』

48 ページの『クローラーのセットアップ要件』

シングル・サーバー・インストールの概要

シングル・サーバー・インストールの場合は、すべての前提ソフトウェアと OmniFind Enterprise Edition を 1 つのサーバーにインストールします。

新規インストール

OmniFind Enterprise Edition インストール・プログラムは、インフォメーション・センターおよび IBM WebSphere Application Server バージョン 6.1 をインストールします。ただし、これらの製品を手動でインストールしたい場合、または既にインストールしている場合は除きます。WebSphere Application Server バージョン 6.1 のもう 1 つのインスタンスはインストールされません。

WebSphere Application Server の場合、インストール・プログラムはバージョン 6.1 基本製品、IBM HTTP Server、および WebSphere Application Server プラグイン・コンポーネントをインストールします。

WebSphere Application Server を手動でインストールする場合、WebSphere Application Server の基本製品、IBM HTTP Server、および WebSphere Application Server プラグイン・コンポーネントをインストールする必要があります。手動インストールについては、WebSphere Application Server インフォメーション・センターを参照してください。

アップグレード・インストール

OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.4 のシングル・サーバー構成からアップグレードする必要があります。

パフォーマンスおよび他の改良点を利用するため、WebSphere Application Server バージョン 6.1 にアップグレードしてから、OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 をインストールしてください。

関連タスク

47 ページの『インストール後の作業』

関連資料

15 ページの『インストール情報フォーム』

67 ページの『インストールの問題のトラブルシューティング』

48 ページの『クローラーのセットアップ要件』

シングル・サーバーへのエンタープライズ・サーチのインストール

インストール・ランチパッドを使用すると、OmniFind Enterprise Edition および必要な他のソフトウェアが 1 台のサーバーにインストールされます。

手順

エンタープライズ・サーチ・システムをシングル・サーバーにインストールするには、次のようにします。

1. 次の手順で製品 CD または電子配布イメージからオペレーティング・システムの適切なセットアップ・ファイルを実行し、インストール・ウィザードを開始します。

オプション	説明
AIX	root ユーザーとしてログインし、 ./install-aix.bin と入力します。
Linux	root ユーザーとしてログインし、 ./install-linux.bin と入力します。
Solaris	root ユーザーとしてログインし、 ./install-solaris.bin と入力します。
Windows	管理者権限を持つユーザーとしてログインします。install-win32.exe ファイルをダブルクリックするか、あるいは install-win32.exe と入力します。

2. インストール・ランチパッドで、「製品のインストール」をクリックします。
3. インストール・ウィザードの指示に従います。システム用に選択を行うか、オプションを指定する場合は、以下のガイドラインに従います。
 - エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID とパスワードを指定する場合、そのユーザー ID が存在していなければ、新規 ID とパスワードを作成するオプションを選択して、インストール・ウィザードにそれを作成させることができます。オペレーティング・システムに既にユーザー ID が存在する場合

は、既存のユーザー ID を使用するオプションを選択します。本書の例では、エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID およびパスワードに `esadmin` を使用しています。

- AIX、Linux、または Solaris では、インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーにデフォルト・パス以外のパスを使用する場合、指定するパス名にスペースが含まれることのないようにしてください。
- インストールするシステムのタイプに関するプロンプトが表示されたら、「シングル・サーバー・インストール」をクリックします。
- メモリー・モデルを選択する場合、インストールのメモリー構成サイズに小、中、または大を指定します。必要となる最大サイズを選択します。
- WebSphere Information Integrator Content Edition をまだインストールしていない場合、オプションとして WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.4 をインストールできます。このソフトウェアをインストールすると、Content Edition クローラーで使用できるデータ・ソースを検索可能索引に追加できます。
- WebSphere Application Server がまだインストールされていない場合、オプションとしてインストール・プログラムにバージョン 6.1 をインストールさせることができます。一般的に、WebSphere Application Server 基本ソフトウェア、IBM HTTP Server、および WebSphere Application Server プラグインのインストールではデフォルト値を受け入れることができます。

WebSphere Application Server の互換バージョンがインストールされている場合、オプションとしてこの既存のインストール・バージョンを使用できます。表示されたインストール・パス、ポート、および IBM HTTP サーバー名が WebSphere Application Server のインストールで正しいことを確認してください。

重要: Solaris で WebSphere Application Server バージョン 6.0.2 を使用する場合、インストール・プログラムは、WebSphere Application Server 基本ソフトウェアがインストールされていることを検出するだけです。IBM HTTP Server および WebSphere Application Server プラグイン用に推奨するインストール・パスが正しくない場合もあります。WebSphere Application Server のインストールのプロンプトが表示されないようにするには、このパスが正しいことを確認してから、インストール・プログラムを続行してください。例えば次のとおりです。

```
/opt/IBM/WebSphere/Plugins/  
/opt/IBMIHS/
```

- WebSphere Application Server のデフォルトのポート割り当てを示す 2 つのページが表示されたら、そのポートがこのコンピューターで他のアプリケーションに既に割り当てられている他のポートと競合していないことを確認します。
 - Windows では、WebSphere Application Server および IBM HTTP Server をサービスとして実行するかどうかを指定できます。サービスを実行するために指定するユーザー ID とパスワードには、オペレーティング・システムの一部として機能し、サービスとしてログオンするための、Windows 管理者特権が必要です。
4. サマリー・ページで、選択したオプションを検討し、「インストール」をクリックして、ソフトウェアのインストールを開始します。

5. WebSphere Application Server をインストールするオプションを選択した場合は、CD を挿入するか、電子配布イメージのパスを指定します。 WebSphere Application Server 基本ソフトウェアのインストール後、ウィザードは、CD の挿入または、補助ソフトウェア (IBM HTTP Server と WebSphere Application Server プラグイン) のパスの指定を求めるプロンプトを出します。

Windows では、CD を挿入する場合、自動実行機能を抑止する必要があります。自動実行を抑止するには、CD を挿入するときに、Shift キーを押したままにします。

6. WebSphere Information Integrator Content Edition をインストールするオプションを選択した場合、CD を挿入するか、電子配布イメージのパスを指定します。

Windows では、CD を挿入する場合、自動実行機能を抑止する必要があります。自動実行を抑止するには、CD を挿入するときに、Shift キーを押したままにします。

7. エンタープライズ・サーチ・ソフトウェアがインストールされると、WebSphere Application Server でデプロイされるアプリケーションに関するメッセージが表示されます。すべてのソフトウェアがインストールされたら、結果ページをクリックして、さまざまなコンポーネントが正常にインストールされたことを確認してください。またオプションで、コンピューターが再始動されると、自動的にファースト・ステップ・プログラムを実行することもできます。
8. Windows でコンピューターを再始動します。
9. オプション: インストールを検証するには、ファースト・ステップ・プログラムを開始します。 インストール・ウィザードの完了時に、ファースト・ステップ・プログラムを開始するオプションを選択した場合、コンピューターを再始動すると、ファースト・ステップ・プログラムが自動的に開始されます。

関連概念

12 ページの『インストール・ディレクトリーとデータ・ディレクトリー』

13 ページの『エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワード』

11 ページの『WebSphere Information Integrator Content Edition との統合』

6 ページの『エンタープライズ・サーチのメモリー・モデル』

関連タスク

47 ページの『インストール後の作業』

58 ページの『ファースト・ステップ・プログラムの開始』

57 ページの『エンタープライズ・サーチ・システムの開始』

関連資料

15 ページの『インストール情報フォーム』

48 ページの『クローラーのセットアップ要件』

2 サーバー・インストールの概要

2 サーバー・インストールは、2 番目のサーバーにフェイルオーバーのサポートのために追加の検索コンポーネントをインストールする以外は、シングル・サーバーのインストールに似ています。

スケーラビリティの向上のために 2 サーバー構成を使用します。特に、多くのユーザーが少量のデータや更新のないデータを検索する環境において効果があります。

新規インストール

OmniFind Enterprise Edition インストール・プログラムは、インフォメーション・センターおよび IBM WebSphere Application Server バージョン 6.1 をインストールします。ただし、これらの製品を手動でインストールしたい場合、または既にインストールしている場合は除きます。WebSphere Application Server バージョン 6.1 のもう 1 つのインスタンスはインストールされません。

WebSphere Application Server の場合、インストール・プログラムはバージョン 6.1 基本製品、IBM HTTP Server、および WebSphere Application Server プラグイン・コンポーネントをインストールします。

WebSphere Application Server を手動でインストールする場合、WebSphere Application Server の基本製品、IBM HTTP Server、および WebSphere Application Server プラグイン・コンポーネントをインストールする必要があります。手動インストールについては、WebSphere Application Server インフォメーション・センターを参照してください。

アップグレード・インストール

OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.4 の 2 サーバー構成からアップグレードする必要があります。

パフォーマンスおよび他の改良点を利用するため、WebSphere Application Server バージョン 6.1 にアップグレードしてから、OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 をインストールしてください。

関連タスク

47 ページの『インストール後の作業』

関連資料

15 ページの『インストール情報フォーム』

67 ページの『インストールの問題のトラブルシューティング』

48 ページの『クローラーのセットアップ要件』

2 サーバー・インストールでのクローラー、索引、および検索コンポーネントのインストール

インストール・ランチパッドを使用すると、クローラー・サーバー、索引サーバー、および検索サーバーが 1 台のコンピューターにインストールされます。そのあと、もう 1 台のコンピューターに冗長化のための検索サーバーをインストールします。

始める前に

提供されたインストール情報フォームを使用しなかった場合、インストール・プログラムの実行時に、以下の情報を記録できるように準備してください。第 2 の検索サーバーをインストールする場合、次の情報が必要です。

- エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワード。この管理者 ID とパスワードは、両方のエンタープライズ・サーチ・サーバーで同じでなければなりません。
- インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーの絶対パス。インストール・ディレクトリーは、両方のエンタープライズ・サーチ・サーバーで同じでなければなりません。
- エンタープライズ・サーチ・データ・ストアのポート。
- このシステムにインストールする小、中、または大のメモリー・モデル。
- 検索サーバーのホスト名およびポート。
- HTTP サーバーのポート。

手順

2 サーバー構成において、1 つ目のサーバーへエンタープライズ・サーチ・システムをインストールするには、次のようにします。

1. 次の手順で製品 CD または電子配布イメージからオペレーティング・システムの適切なセットアップ・ファイルを実行し、インストール・ウィザードを開始します。

オプション	説明
AIX	root ユーザーとしてログインし、 ./install-aix.bin と入力します。
Linux	root ユーザーとしてログインし、 ./install-linux.bin と入力します。
Solaris	root ユーザーとしてログインし、 ./install-solaris.bin と入力します。
Windows	管理者権限を持つユーザーとしてログインします。install-win32.exe ファイルをダブルクリックするか、あるいは install-win32.exe と入力します。

2. インストール・ランチパッドで、「製品のインストール」をクリックします。
3. インストール・ウィザードの指示に従います。システム用に選択を行うか、オプションを指定する場合は、以下のガイドラインに従います。
 - エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID とパスワードを指定する場合、そのユーザー ID が存在していなければ、新規 ID とパスワードを作成するオプションを選択して、インストール・ウィザードにそれを作成させることができます。オペレーティング・システムに既にユーザー ID が存在する場合は、既存のユーザー ID を使用するオプションを選択します。本書の例では、エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID およびパスワードに esadmin を使用しています。
 - AIX、Linux、または Solaris では、インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーにデフォルト・パス以外のパスを使用する場合、指定するパス名にスペースが含まれることのないようにしてください。
 - インストールするシステムのタイプに関するプロンプトが表示されたら、「2 サーバー・インストール」をクリックし、「2 サーバー・インストール・クローラー、索引、および検索サーバー」をクリックします。

- メモリー・モデルを選択する場合、インストールのメモリー構成サイズに小、中、または大を指定します。必要となる最大サイズを選択します。
- WebSphere Information Integrator Content Edition をまだインストールしていない場合、オプションとして WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.4 をインストールできます。このソフトウェアをインストールすると、Content Edition クローラーで使用できるデータ・ソースを検索可能索引に追加できます。
- WebSphere Application Server がまだインストールされていない場合、オプションとしてインストール・プログラムにバージョン 6.1 をインストールさせることができます。一般的に、WebSphere Application Server 基本ソフトウェア、IBM HTTP Server、および WebSphere Application Server プラグインのインストールではデフォルト値を受け入れることができます。

WebSphere Application Server の互換バージョンがインストールされている場合、オプションとしてこの既存のインストール・バージョンを使用できます。表示されたインストール・パス、ポート、および IBM HTTP サーバー名が WebSphere Application Server のインストールで正しいことを確認してください。

重要: Solaris で WebSphere Application Server バージョン 6.0.2 を使用する場合、インストール・プログラムは、WebSphere Application Server 基本ソフトウェアがインストールされていることを検出するだけです。IBM HTTP Server および WebSphere Application Server プラグイン用に推奨するインストール・パスが正しくない場合もあります。WebSphere Application Server のインストールのプロンプトが表示されないようにするには、このパスが正しいことを確認してから、インストール・プログラムを続行してください。例えば次のとおりです。

```
/opt/IBM/WebSphere/Plugins/  
/opt/IBMIHS/
```

- WebSphere Application Server のデフォルトのポート割り当てを示す 2 つのページが表示されたら、そのポートがこのコンピューターで他のアプリケーションに既に割り当てられている他のポートと競合していないことを確認します。
 - Windows では、WebSphere Application Server および IBM HTTP Server をサービスとして実行するかどうかを指定できます。サービスを実行するために指定するユーザー ID とパスワードには、オペレーティング・システムの一部として機能し、サービスとしてログオンするための、Windows 管理者特権が必要です。
4. サマリー・ページで、選択したオプションを検討し、「インストール」をクリックして、ソフトウェアのインストールを開始します。
 5. WebSphere Application Server をインストールするオプションを選択した場合は、CD を挿入するか、電子配布イメージのパスを指定します。WebSphere Application Server 基本ソフトウェアのインストール後、ウィザードは、CD の挿入または、補助ソフトウェア (IBM HTTP Server と WebSphere Application Server プラグイン) のパスの指定を求めるプロンプトを出します。

Windows では、CD を挿入する場合、自動実行機能を抑止する必要があります。自動実行を抑止するには、CD を挿入するときに、Shift キーを押したままにします。

6. WebSphere Information Integrator Content Edition をインストールするオプションを選択した場合、CD を挿入するか、電子配布イメージのパスを指定します。

Windows では、CD を挿入する場合、自動実行機能を抑止する必要があります。自動実行を抑止するには、CD を挿入するときに、Shift キーを押したままにします。

7. エンタープライズ・サーチ・ソフトウェアがインストールされると、WebSphere Application Server でデプロイされるアプリケーションに関するメッセージが表示されます。すべてのソフトウェアがインストールされたら、結果ページをクリックして、インストールが成功したことを確認してください。
8. コンピューターの再始動時にファースト・ステップ・プログラムを自動的に実行するオプションは、選択しないでください。第 2 の検索サーバーのインストール後に、ファースト・ステップ・プログラムを実行して、インストールを検証することができます。
9. Windows でコンピューターを再始動します。

関連概念

- 12 ページの『インストール・ディレクトリーとデータ・ディレクトリー』
- 13 ページの『エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワード』
- 11 ページの『WebSphere Information Integrator Content Edition との統合』
- 6 ページの『エンタープライズ・サーチのメモリー・モデル』

関連タスク

- 47 ページの『インストール後の作業』
- 58 ページの『ファースト・ステップ・プログラムの開始』
- 57 ページの『エンタープライズ・サーチ・システムの開始』

関連資料

- 15 ページの『インストール情報フォーム』

2 サーバー・インストールの場合の第 2 の検索サーバーのインストール

最初のサーバーにすべてのコンポーネントをインストールした後、もう 1 台のサーバーに予備の検索サーバーをインストールします。

このタスクについて

第 2 の検索サーバーをインストールする場合、インストール情報フォームに記録した情報または最初に作成したエンタープライズ・サーチ・サーバーをインストールした際の情報を使用します。

手順

- 2 サーバー構成において、第 2 の検索サーバーをインストールするには、次のようになります。
1. 次の手順で製品 CD または電子配布イメージからオペレーティング・システムの適切なセットアップ・ファイルを実行し、インストール・ウィザードを開始します。

オプション	説明
AIX	root ユーザーとしてログインし、 ./install-aix.bin と入力します。
Linux	root ユーザーとしてログインし、 ./install-linux.bin と入力します。
Solaris	root ユーザーとしてログインし、 ./install-solaris.bin と入力します。
Windows	管理者権限を持つユーザーとしてログインし ます。install-win32.exe ファイルをダブル クリックするか、あるいは install-win32.exe と入力します。

2. インストール・ランチパッドで、「製品のインストール」をクリックします。
3. インストール・ウィザードの指示に従います。システム用に選択を行うか、オプションを指定する場合は、以下のガイドラインに従います。
 - エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID とパスワードには、最初に作成したエンタープライズ・サーチ・サーバーで指定した値を指定します。管理者 ID とパスワードは、両方のサーバーで同じでなければなりません。
 - インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーには、最初に作成したエンタープライズ・サーチ・サーバーで指定した値を指定します。インストール・ディレクトリーは、両方のサーバーで同じでなければなりません。
 - インストールするシステムのタイプに関するプロンプトが表示されたら、「**2 サーバー・インストール**」をクリックし、「**2 サーバー・インストール - 検索サーバー**」をクリックします。
 - メモリー・モデルには、最初に作成したエンタープライズ・サーチ・サーバーで指定した同じ値を指定します。メモリー構成は両方のサーバーで同じでなければなりません。
 - WebSphere Application Server がまだインストールされていない場合、オプションとしてインストール・プログラムにバージョン 6.1 をインストールさせることができます。一般的に、WebSphere Application Server 基本ソフトウェア、IBM HTTP Server、および WebSphere Application Server プラグインのインストールではデフォルト値を受け入れることができます。

WebSphere Application Server の互換バージョンがインストールされている場合、オプションとしてこの既存のインストール・バージョンを使用できます。表示されたインストール・パス、ポート、および IBM HTTP サーバー名が WebSphere Application Server のインストールで正しいことを確認してください。

重要: Solaris で WebSphere Application Server バージョン 6.0.2 を使用する場合、インストール・プログラムは、WebSphere Application Server 基本ソフトウェアがインストールされていることを検出するだけです。IBM HTTP Server および WebSphere Application Server プラグイン用に推奨するインストール・パスが正しくない場合もあります。WebSphere Application Server のインストールのプロンプトが表示されないようにするには、このパスが正しいことを確認してから、インストール・プログラムを続行してください。例えば次のとおりです。

```
/opt/IBM/WebSphere/Plugins/  
/opt/IBMIHS/
```

- WebSphere Application Server のデフォルトのポート割り当てを示す 2 つのページが表示されたら、そのポートがこのコンピューターで他のアプリケーションに既に割り当てられている他のポートと競合していないことを確認します。
 - Windows では、WebSphere Application Server および IBM HTTP Server をサービスとして実行するかどうかを指定できます。サービスを実行するために指定するユーザー ID とパスワードには、オペレーティング・システムの一部として機能し、サービスとしてログオンするための、Windows 管理者特権が必要です。
4. サマリー・ページで、選択したオプションを検討し、「インストール」をクリックして、ソフトウェアのインストールを開始します。
 5. WebSphere Application Server をインストールするオプションを選択した場合は、CD を挿入するか、電子配布イメージのパスを指定します。WebSphere Application Server 基本ソフトウェアのインストール後、ウィザードは、CD の挿入または、補助ソフトウェア (IBM HTTP Server と WebSphere Application Server プラグイン) のパスの指定を求めるプロンプトを出します。

Windows では、CD を挿入する場合、自動実行機能を抑止する必要があります。自動実行を抑止するには、CD を挿入するときに、Shift キーを押したままにします。

6. エンタープライズ・サーチ・ソフトウェアがインストールされると、WebSphere Application Server でデプロイされるアプリケーションに関するメッセージが表示されます。すべてのソフトウェアがインストールされたら、結果ページをクリックして、さまざまなコンポーネントが正常にインストールされたことを確認してください。またオプションで、コンピューターが再始動されると、自動的にファースト・ステップ・プログラムを実行することもできます。
7. Windows でコンピューターを再始動します。
8. オプション: インストールを検証するには、ファースト・ステップ・プログラムを開始します。

関連概念

12 ページの『インストール・ディレクトリーとデータ・ディレクトリー』

13 ページの『エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワード』

11 ページの『WebSphere Information Integrator Content Edition との統合』

6 ページの『エンタープライズ・サーチのメモリー・モデル』

関連タスク

47 ページの『インストール後の作業』

58 ページの『ファースト・ステップ・プログラムの開始』

57 ページの『エンタープライズ・サーチ・システムの開始』

関連資料

15 ページの『インストール情報フォーム』

4 サーバー・インストールの概要

ハイ・ボリューム・システムでの最高のパフォーマンスのために、エンタープライズ・サーチを 4 つの分散サーバーにインストールできます。4 サーバー構成では、クローラー・コンポーネントを 1 つのサーバーに、索引コンポーネントを別のサーバーに、検索コンポーネントを 2 つのサーバーにインストールします。

新規インストール

OmniFind Enterprise Edition インストール・プログラムは、インフォメーション・センターおよび IBM WebSphere Application Server バージョン 6.1 をインストールします。ただし、これらの製品を手動でインストールしたい場合、または既にインストールしている場合は除きます。WebSphere Application Server バージョン 6.1 のもう 1 つのインスタンスはインストールされません。

WebSphere Application Server の場合、インストール・プログラムはバージョン 6.1 基本製品、IBM HTTP Server、および WebSphere Application Server プラグイン・コンポーネントをインストールします。

WebSphere Application Server を手動でインストールする場合、WebSphere Application Server の基本製品、IBM HTTP Server、および WebSphere Application Server プラグイン・コンポーネントをインストールする必要があります。手動インストールについては、WebSphere Application Server インフォメーション・センターを参照してください。

アップグレード・インストール

OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.4 の 4 サーバー構成からアップグレードする必要があります。

パフォーマンスおよび他の改良点を利用するため、WebSphere Application Server バージョン 6.1 にアップグレードしてから、OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 をインストールしてください。

4 サーバー方式

エンタープライズ・サーチ・システムの各サーバーは、コンポーネント名により参照されます。例えば、クローラー・コンポーネントがサーバーにインストールされている場合、そのサーバーはクローラー・サーバーと呼ばれます。

以下の図は、4 つのサーバーとそれらのコンポーネントを表しています。Content Edition コネクタは、クローラー・サーバーでインストール・プログラムを実行するときに、WebSphere Information Integrator Content Edition をインストールすることを選択した場合にのみインストールされます。

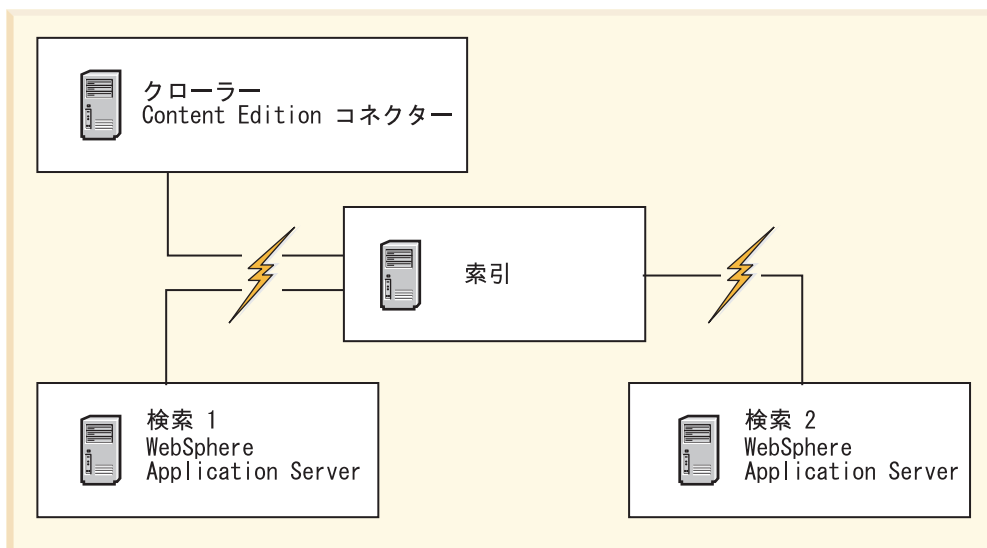


図 5. 4 つのエンタープライズ・サーチ・サーバーとそれらのソフトウェア・コンポーネント

インストール順序

索引サーバーは、4 サーバー構成では、コントロール・サーバーとしての役割を果たします。索引コンポーネントのインストール時には他のサーバーのホスト名やポートが必要になるので、索引サーバーを最後にインストールします。すべてのサーバーがインストールされるまで、システム・サービスを開始できません。

次の順序で、エンタープライズ・サーチ・サーバーと該当するソフトウェアをインストールし構成します。

1. クローラー・サーバー

インストール・プログラムによって、以下のソフトウェアがインストールされます。

- エンタープライズ・サーチのクローラー・コンポーネント
- オプション: WebSphere Information Integrator Content Edition コネクター
- 以下のクローラーのセットアップ・スクリプト
 - Content Edition
 - DB2
 - Domino Document Manager
 - Notes
 - QuickPlace
 - シード・リスト
 - Web Content Management
 - WebSphere Portal

これらのタイプのソースをクロールするには、エンタープライズ・サーチ・ソフトウェアのインストール後、適切なセットアップ・スクリプトを実行する必要があります。

2. 検索サーバー 1

インストール・プログラムによって、以下のソフトウェアがインストールされます。

- エンタープライズ・サーチの検索コンポーネント
- WebSphere Application Server バージョン 6.1 (新規インストールのみ)
- IBM HTTP Server (新規インストールのみ)
- WebSphere Application Server プラグイン (新規インストールのみ)
- インフォメーション・センター

3. 検索サーバー 2

インストール・プログラムによって、以下のソフトウェアがインストールされます。

- エンタープライズ・サーチの検索コンポーネント
- WebSphere Application Server バージョン 6.1 (新規インストールのみ)
- IBM HTTP Server (新規インストールのみ)
- WebSphere Application Server プラグイン (新規インストールのみ)
- インフォメーション・センター

4. 索引サーバー

インストール・プログラムによって、エンタープライズ・サーチの索引コンポーネントがインストールされます。

システムに、必要なソフトウェアのすべてまたは一部が既にインストールされている場合は、必要なソフトウェアが適切なエンタープライズ・サーチ・サーバーにインストールされているか確認してください。 WebSphere Application Server のリモート・インスタンスへの接続はサポートされません。

インストールする各コンポーネントごとに、エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー名とパスワードを指定します。各サーバーで同じユーザー名とパスワードを指定しなければなりません。

インストールの助けとなるので、各サーバーごとに指定する必要がある情報を記録することをお勧めします。インストール情報フォームを使用して、情報を記録してください。

関連タスク

47 ページの『インストール後の作業』

関連資料

15 ページの『インストール情報フォーム』

67 ページの『インストールの問題のトラブルシューティング』

48 ページの『クローラーのセットアップ要件』

4 サーバー・インストールの場合のクローラー・サーバーのインストール

4 サーバー構成でエンタープライズ・サーチをインストールする場合、まずクローラー・サーバーをインストールします。

始める前に

提供されたインストール情報フォームを使用しなかった場合、インストール・プログラムの実行時に、以下の情報を記録できるように準備してください。検索サーバーおよび索引サーバーをインストールする場合、次の情報が必要です。

- エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワード。この管理者 ID とパスワードは、すべてのエンタープライズ・サーチ・サーバーで同じでなければなりません。
- インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーの絶対パス。インストール・ディレクトリーは、すべてのエンタープライズ・サーチ・サーバーで同じでなければなりません。
- エンタープライズ・サーチ・データ・ストアのポート。
- クローラー・サーバーのホスト名およびポート。
- このシステムにインストールする小、中、または大のメモリー・モデル。

手順

- 4 サーバー構成でクローラー・サーバーをインストールするには、次のようにします。
 1. 次の手順で製品 CD または電子配布イメージからオペレーティング・システムの適切なセットアップ・ファイルを実行し、インストール・ウィザードを開始します。

オプション	説明
AIX	root ユーザーとしてログインし、 ./install-aix.bin と入力します。
Linux	root ユーザーとしてログインし、 ./install-linux.bin と入力します。
Solaris	root ユーザーとしてログインし、 ./install-solaris.bin と入力します。
Windows	管理者権限を持つユーザーとしてログインします。install-win32.exe ファイルをダブルクリックするか、あるいは install-win32.exe と入力します。

2. インストール・ランチパッドで、「製品のインストール」をクリックします。
3. インストール・ウィザードの指示に従います。ご使用のシステム用の、選択とオプション指定を行う場合は、以下のガイドラインに従います。
 - エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID とパスワードを指定する場合、そのユーザー ID が存在していなければ、新規 ID とパスワードを作成するオプションを選択して、インストール・ウィザードにそれを作成させることができます。オペレーティング・システムに既にユーザー ID が存在する場合は、既存のユーザー ID を使用するオプションを選択します。本書の例では、エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID およびパスワードに `esadmin` を使用しています。

- AIX、Linux、または Solaris では、インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーにデフォルト・パス以外のパスを使用する場合、指定するパス名にスペースが含まれることのないようにしてください。
 - インストールするシステムのタイプに関するプロンプトが表示されたら、「**4 サーバー・インストール**」をクリックし、「**クローラー・サーバー**」をクリックします。
 - メモリー・モデルを選択する場合、インストールのメモリー構成サイズに小、中、または大を指定します。必要となる最大サイズを選択します。
 - WebSphere Information Integrator Content Edition をまだインストールしていない場合、オプションとして WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.4 をインストールできます。このソフトウェアをインストールすると、Content Edition クローラーで使用できるデータ・ソースを検索可能索引に追加できます。
4. サマリー・ページで、選択したオプションを検討し、「**インストール**」をクリックして、ソフトウェアのインストールを開始します。
 5. WebSphere Information Integrator Content Edition をインストールするオプションを選択した場合、CD を挿入するか、電子配布イメージのパスを指定します。

Windows では、CD を挿入する場合、自動実行機能を抑止する必要があります。自動実行を抑止するには、CD を挿入するときに、Shift キーを押したままにします。

6. エンタープライズ・サーチ・ソフトウェアがインストールされたら、結果ページをクリックして、インストールが成功したことを確認してください。
7. Windows でコンピューターを再始動します。

関連概念

- 12 ページの『インストール・ディレクトリーとデータ・ディレクトリー』
- 13 ページの『エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワード』
- 11 ページの『WebSphere Information Integrator Content Edition との統合』
- 6 ページの『エンタープライズ・サーチのメモリー・モデル』

関連タスク

- 47 ページの『インストール後の作業』
- 58 ページの『ファースト・ステップ・プログラムの開始』
- 57 ページの『エンタープライズ・サーチ・システムの開始』

関連資料

- 15 ページの『インストール情報フォーム』

4 サーバー・インストールでの検索サーバーのインストール

エンタープライズ・サーチの検索サーバーは、WebSphere Application Server がインストールされたのと同じコンピューターにインストールします。

始める前に

提供されたインストール情報フォームを使用しなかった場合、インストール・プログラムの実行時に、以下の情報を記録できるように準備してください。索引サーバーをインストールする場合、次の情報が必要です。

- エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワード。この管理者 ID とパスワードは、両方のエンタープライズ・サーチ・サーバーで同じでなければなりません。
- インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーの絶対パス。インストール・ディレクトリーは、両方のエンタープライズ・サーチ・サーバーで同じでなければなりません。
- このシステムにインストールする小、中、または大のメモリー・モデル。
- 検索サーバーのホスト名およびポート。
- HTTP サーバーのポート。

このタスクについて

インストール中に表示されるプロンプトは、ご使用のシステムの現行構成により異なります。

手順

4 サーバー構成で 2 つの検索サーバーをインストールするには、2 台のコンピューターで次の手順を実行します。

1. 次の手順で製品 CD または電子配布イメージからオペレーティング・システムの適切なセットアップ・ファイルを実行し、インストール・ウィザードを開始します。

オプション	説明
AIX	root ユーザーとしてログインし、 ./install-aix.bin と入力します。
Linux	root ユーザーとしてログインし、 ./install-linux.bin と入力します。
Solaris	root ユーザーとしてログインし、 ./install-solaris.bin と入力します。
Windows	管理者権限を持つユーザーとしてログインします。install-win32.exe ファイルをダブルクリックするか、あるいは install-win32.exe と入力します。

2. インストール・ランチパッドで、「製品のインストール」をクリックします。
3. インストール・ウィザードの指示に従います。システム用に選択を行うか、オプションを指定する場合は、以下のガイドラインに従います。
 - エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID とパスワードには、クローラー・サーバーで指定した値を指定します。この管理者 ID とパスワードは、すべてのエンタープライズ・サーチ・サーバーで同じでなければなりません。
 - インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーには、クローラー・サーバーで指定した値を指定します。インストール・ディレクトリーは、すべてのエンタープライズ・サーチ・サーバーで同じでなければなりません。
 - インストールするシステムのタイプに関するプロンプトが表示されたら、「4 サーバー・インストール」をクリックし、「検索サーバー」をクリックします。

- メモリー・モデルには、クローラー・サーバーで指定した同じ値を指定します。メモリー構成は、すべてのエンタープライズ・サーチ・サーバーで同じでなければなりません。
- WebSphere Application Server がまだインストールされていない場合、オプションとしてインストール・プログラムにバージョン 6.1 をインストールさせることができます。一般的に、WebSphere Application Server 基本ソフトウェア、IBM HTTP Server、および WebSphere Application Server プラグインのインストールではデフォルト値を受け入れることができます。

WebSphere Application Server の互換バージョンがインストールされている場合、オプションとしてこの既存のインストール・バージョンを使用できます。表示されたインストール・パス、ポート、および IBM HTTP サーバー名が WebSphere Application Server のインストールで正しいことを確認してください。

重要: Solaris で WebSphere Application Server バージョン 6.0.2 を使用する場合、インストール・プログラムは、WebSphere Application Server 基本ソフトウェアがインストールされていることを検出するだけです。IBM HTTP Server および WebSphere Application Server プラグイン用に推奨するインストール・パスが正しくない場合もあります。WebSphere Application Server のインストールのプロンプトが表示されないようにするには、このパスが正しいことを確認してから、インストール・プログラムを続行してください。例えば次のとおりです。

```
/opt/IBM/WebSphere/Plugins/  
/opt/IBMIHS/
```

- WebSphere Application Server のデフォルトのポート割り当てを示す 2 つのページが表示されたら、そのポートがこのコンピューターで他のアプリケーションに既に割り当てられている他のポートと競合していないことを確認します。
 - Windows では、WebSphere Application Server および IBM HTTP Server をサービスとして実行するかどうかを指定できます。サービスを実行するために指定するユーザー ID とパスワードには、オペレーティング・システムの一部として機能し、サービスとしてログオンするための、Windows 管理者特権が必要です。
4. サマリー・ページで、選択したオプションを検討し、「インストール」をクリックして、ソフトウェアのインストールを開始します。
 5. WebSphere Application Server をインストールするオプションを選択した場合は、CD を挿入するか、電子配布イメージのパスを指定します。WebSphere Application Server 基本ソフトウェアのインストール後、ウィザードは、CD の挿入または、補助ソフトウェア (IBM HTTP Server と WebSphere Application Server プラグイン) のパスの指定を求めるプロンプトを出します。

Windows では、CD を挿入する場合、自動実行機能を抑止する必要があります。自動実行を抑止するには、CD を挿入するときに、Shift キーを押したままにします。

6. エンタープライズ・サーチ・ソフトウェアがインストールされると、WebSphere Application Server でデプロイされるアプリケーションに関するメッセージが表示されます。すべてのソフトウェアがインストールされたら、結果ページをクリックして、インストールが成功したことを確認してください。

7. Windows でコンピューターを再起動します。

関連概念

- 12 ページの『インストール・ディレクトリーとデータ・ディレクトリー』
- 13 ページの『エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワード』
- 11 ページの『WebSphere Information Integrator Content Edition との統合』
- 6 ページの『エンタープライズ・サーチのメモリー・モデル』

関連タスク

- 47 ページの『インストール後の作業』
- 58 ページの『ファースト・ステップ・プログラムの開始』
- 57 ページの『エンタープライズ・サーチ・システムの開始』

関連資料

- 15 ページの『インストール情報フォーム』

4 サーバー・インストールの場合の索引サーバーのインストール

索引サーバーをインストールするには、クローラー・サーバー、検索サーバー、およびこれらの前提ソフトウェアに関する情報を指定する必要があります。

このタスクについて

索引コンポーネントをインストールする場合、インストール情報フォームに記録した情報、またはクローラー・サーバーおよび検索サーバーをインストールした際の情報を使用します。

手順

- 4 サーバー構成で索引サーバーをインストールするには、次のようにします。
 1. 次の手順で製品 CD または電子配布イメージからオペレーティング・システムの適切なセットアップ・ファイルを実行し、インストール・ウィザードを開始します。

オプション	説明
AIX	root ユーザーとしてログインし、 ./install-aix.bin と入力します。
Linux	root ユーザーとしてログインし、 ./install-linux.bin と入力します。
Solaris	root ユーザーとしてログインし、 ./install-solaris.bin と入力します。
Windows	管理者権限を持つユーザーとしてログインします。install-win32.exe ファイルをダブルクリックするか、あるいは install-win32.exe と入力します。

2. インストール・ランチパッドで、「製品のインストール」をクリックします。
3. インストール・ウィザードの指示に従います。システム用に選択を行うか、オプションを指定する場合は、以下のガイドラインに従います。

- エンタープライズ・サーチ管理者のユーザー ID とパスワードには、クローラー・サーバーで指定した値を指定します。この管理者 ID とパスワードは、すべてのエンタープライズ・サーチ・サーバーで同じでなければなりません。
 - インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーには、クローラー・サーバーで指定した値を指定します。インストール・ディレクトリーは、すべてのエンタープライズ・サーチ・サーバーで同じでなければなりません。
 - インストールするシステムのタイプに関するプロンプトが表示されたら、「4 サーバー・インストール」をクリックし、「索引サーバー」をクリックします。
 - メモリー・モデルには、クローラー・サーバーで指定した同じ値を指定します。メモリー構成は、すべてのエンタープライズ・サーチ・サーバーで同じでなければなりません。
4. 該当するフィールドに以下の情報を指定します。システム構成によっては、インストール時に、これ以外のプロンプトが表示されることがあります。
 - クローラー・サーバーのホスト名およびポート
 - クローラー・サーバーのデータ・ディレクトリー
 - クローラー・サーバー上のエンタープライズ・サーチ・データ・ストアのポート
 - 各検索サーバーのホスト名およびポート
 - 各検索サーバーのデータ・ディレクトリー
 - 各検索サーバーの HTTP サーバー・ポート
 - 索引サーバーのホスト名およびポート
 5. エンタープライズ・サーチ・ソフトウェアがインストールされたら、結果ページをクリックして、インストールが成功したことを確認してください。またオプションで、コンピューターが再始動されると、自動的にファースト・ステップ・プログラムを実行することもできます。
 6. Windows でコンピューターを再始動します。
 7. オプション: インストールを検証するには、ファースト・ステップ・プログラムを開始します。インストール・ウィザードの完了時に、ファースト・ステップ・プログラムを開始するオプションを選択した場合、コンピューターを再始動すると、ファースト・ステップ・プログラムが自動的に開始されます。

関連概念

- 12 ページの『インストール・ディレクトリーとデータ・ディレクトリー』
- 13 ページの『エンタープライズ・サーチ管理者 ID とパスワード』
- 11 ページの『WebSphere Information Integrator Content Edition との統合』
- 6 ページの『エンタープライズ・サーチのメモリー・モデル』

関連タスク

- 47 ページの『インストール後の作業』
- 58 ページの『ファースト・ステップ・プログラムの開始』
- 57 ページの『エンタープライズ・サーチ・システムの開始』

関連資料

- 15 ページの『インストール情報フォーム』

インストール後の作業

エンタープライズ・サーチのコレクションを作成する前に、追加のソフトウェアをインストールするか、システム構成設定を調整して、検索するデータのタイプをサポートするようにしてください。

例えば次のとおりです。

- Windows では、エンタープライズ・サーチ用の Windows サービスが正しく構成されていることを確認する必要があります。
- 検索するデータ・ソースのタイプによっては、クローラーを構成する前にクローラー・サーバー上のセットアップ・スクリプトを実行する必要があります。
- エンタープライズ・サーチ製品パッケージに含まれる DB2 Enterprise Server Edition をインストールする場合、DB2 製品のライセンス・キーを登録する必要があります。
- AIX、Linux、および Solaris では、無限値を検証または設定する必要があります。
- インフォメーション・センターのインストール済みバージョンを使用しない場合、システムを構成して公開 IBM Web サイト上のインフォメーション・センターを使用できます。
- Windows では、CIFS (Common Internet File System) ネットワーク・ドライブを使用してコレクション・データを保管するように、システムを構成できます。

関連タスク

『エンタープライズ・サーチ用の Windows サービスの構成』

50 ページの『DB2 Enterprise Server のライセンス・キーの登録』

51 ページの『エンタープライズ・サーチの無限値の設定』

53 ページの『公開 Web サイトにアクセスするためのインフォメーション・センターのセットアップ』

54 ページの『コレクション・データの CIFS ドライブへのマッピング』

関連資料

48 ページの『クローラーのセットアップ要件』

エンタープライズ・サーチ用の Windows サービスの構成

エンタープライズ・サーチを正しく機能させるには、Windows サービスを自動的に開始するように設定しておく必要があります。

手順

エンタープライズ・サーチ用の Windows サービスが自動的に開始するよう設定されているか検査するには、以下のようにします。

1. 「コントロール パネル」 → 「管理ツール」 → 「サービス」とクリックします。

2. **IBM OmniFind Enterprise Edition** サービスの開始タイプが「自動」に設定されていることを確認します。

関連タスク

47 ページの『インストール後の作業』

クローラーのセットアップ要件

データ・ソースの一部のタイプをクロールするか、ユーザーがコレクションを検索する時にセキュリティーが強化されることを確認するには、クローラー・サーバーでセットアップ・スクリプトを実行する必要があります。

また、クロール対象のサーバーを構成して、エンタープライズ・サーチ・サーバーによって、それらのサーバーへの通信、クロール対象のデータへのアクセス、およびセキュリティー・データの取得を可能にする必要があります。次の表に、それぞれのクローラー・タイプに必要なインストール後のタスクを要約してあります。スクリプトを実行し、ターゲット・サーバーを構成してからクローラーを作成してください。
















表1. クローラーのセットアップ要件

クローラー・タイプ	セットアップ要件
Content Edition	直接モードでリポジトリにアクセスするには、WebSphere Information Integrator Content Edition サーバーでクローラー・サーバーのコネクターを構成する必要があります。 サーバー・モードでリポジトリにアクセスするには、クローラー・サーバーで <code>escrvbr.sh</code> または <code>escrvbr.vbs</code> スクリプトを実行する必要があります。
DB2	クローラー・サーバーで <code>escrdb2.sh</code> または <code>escrdb2.vbs</code> スクリプトを実行する必要があります。また、DB2 Administration Client がクローラー・サーバーにインストールされていることを確認する必要があります。
DB2 Content Manager	クローラー・サーバーで <code>escrcm.sh</code> または <code>escrcm.vbs</code> スクリプトを実行する必要があります。

表1. クローラーのセットアップ要件 (続き)

クローラー・タイプ	セットアップ要件
Domino Document Manager、Notes、QuickPlace	<p>Lotus Notes® リモート・プロシージャー・コール (NRPC) プロトコルを使用する、Lotus® Domino® サーバーをクロールするには、以下のようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • AIX システムでは、I/O 完了ポート・モジュールがインストールされていてクローラー・サーバーで使用可能であることを確認します。 • クローラー・サーバーで <code>escrnote.sh</code> または <code>escrnote.vbs</code> スクリプトを実行します。 • Lotus Domino サーバーをクローラー・サーバーにインストールします。Lotus Domino サーバーは、クロール対象の Domino ドメインのメンバーである必要があります。最高のセキュリティのために Lotus Domino サーバーを Lotus Domino Trusted Server として構成します。 <p>Lotus Domino Internet Inter-ORB Protocol (DIIOP) を使用する Lotus Domino サーバーをクロールするには、以下のようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • AIX システムでは、I/O 完了ポート・モジュールがインストールされていてクローラー・サーバーで使用可能であることを確認します。 • DIIOP プロトコルを使用するようにクローラー・サーバーを構成します。
Exchange Server	<p>Exchange Server 鍵管理および Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを使用するには、鍵ストア・ファイルをクローラー・サーバーに置く必要があります (クローラーを構成する際にファイルへアクセスするためのパスワードを指定します)。</p>
JDBC データベース	<p>セットアップ要件はありません。</p>
NNTP	<p>セットアップ要件はありません。</p>
UNIX ファイル・システム	<p>セットアップ要件はありません。</p>
Web	<p>Web Crawler はロボット排他プロトコルに従います。このプロトコルについては、http://www.robotstxt.org/wc/exclusion.html を参照してください。</p> <p>セキュリティ要件によっては、Web サーバーが HTTP 基本認証またはフォーム・ベースの認証によって保護されているサイトにアクセスできることを確認します。</p>
シード・リスト、Web Content Management、WebSphere Portal	<p>セットアップ・スクリプトを実行して、エンタープライズ・サーチを WebSphere ポータル・サーバーと統合する必要があります。WebSphere ポータルの異なるバージョンには、別のスクリプトが用意されます。</p>
Windows ファイル・システム	<p>ユーザーが検索要求をサブミットする時に現行ユーザーのクレデンシャルを検証するには、ドメイン・アカウントが正しく構成されていることを確認します。ローカル・コンピューターでクロールされるファイルのドメイン・アカウントをセットアップするための要件は、リモートの Windows サーバーでクロールされるファイルの要件とは異なります。</p>

関連概念

-  [Content Edition クローラー](#)
-  [DB2 クローラー](#)
-  [DB2 Content Manager クローラー](#)
-  [Lotus Domino Document Manager クローラー](#)
-  [Exchange Server クローラー](#)
-  [JDBC データベース・クローラー](#)
-  [NNTP クローラー](#)
-  [Lotus Notes クローラー](#)
-  [QuickPlace クローラー](#)
-  [シード・リスト・クローラー](#)
-  [UNIX ファイル・システム・クローラー](#)
-  [Web クローラー](#)
-  [Web Content Management クローラー](#)
-  [WebSphere Portal クローラー](#)
-  [Windows ファイル・システム・クローラー](#)

関連タスク

47 ページの『インストール後の作業』

関連資料

-  [セキュリティ・サポートのためのクローラーのセットアップ要件](#)

DB2 Enterprise Server のライセンス・キーの登録

エンタープライズ・サーチのインストール後に、DB2 Enterprise Server Edition を手動でインストールできます。DB2 を使用する前に、DB2 製品のライセンス・キーを登録する必要があります。

このタスクについて

DB2 製品のライセンス・キーを登録するには、DB2 Enterprise Server Edition がインストールされる各コンピューターで **db2licm** コマンドを実行します。ライセンス・キーにより、OmniFind Enterprise Edition で DB2 を使用できるようになります。

DB2 Enterprise Server Edition のインストール方法については、製品パッケージで提供される DB2 Enterprise Server Edition Information Center をまたは、<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/db2luw/v9/index.jsp>を参照してください。

1. エンタープライズ・サーチ管理者として、または `ES_INSTALL_ROOT/license` ディレクトリーに対する読み書き特権を持つユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、DB2 Enterprise Server Edition ライセンス・キーを登録します。

AIX、Linux、または Solaris

```
db2licm -a $ES_INSTALL_ROOT/license/db2ese_o.lic.txt
```

Windows

```
db2licm -a %ES_INSTALL_ROOT%/license/db2ese_o.lic.txt
```

関連タスク

47 ページの『インストール後の作業』

エンタープライズ・サーチの無限値の設定

正しい操作を行うため、AIX、Linux、または Solaris システムでの OmniFind Enterprise Edition のインストール後に正しい無限値が設定されていることを確認する必要があります。

OmniFind Enterprise Edition が十分なシステム・リソースを使用できるように、次の無限値が正しく設定されていることを確認する必要があります。

設定	ソフト/ハード
NoFiles	32768/65536
Filesize	unlimited/unlimited
Data	unlimited/unlimited
Stack	unlimited/unlimited
Memory	unlimited/unlimited
Coredump	unlimited/unlimited

ソフト無限設定を検証するには、**ulimit -aS** コマンドを実行します。

ハード無限設定を検証するには、**ulimit -aH** コマンドを実行します。

AIX および Linux の場合、インストール・プログラムは、エンタープライズ・サーチ管理者 ID にこうした無限値を設定しようとします。設定の有無またはその設定が正しいことかを検証し、正しい値に設定します。マルチサーバー構成では、すべてのエンタープライズ・サーチ・サーバーで無限設定を確認し、訂正する必要があります。

次の手順では、*admin_user_ID* は、エンタープライズ・サーチ管理者 ID を表します。

1. AIX で無限値を設定または検証するには、次のようにします。
 - a. root ユーザーとしてログインします。
 - b. 次のコマンドを実行します。

```
chuser nofiles=32768 nofiles_hard=65536 admin_user_ID  
chuser fsize=-1 fsize_hard=-1 admin_user_ID  
chuser data=-1 data_hard=-1 admin_user_ID
```

```
chuser stack=-1 stack_hard=-1 admin_user_ID
chuser rss=-1 rss_hard=-1 admin_user_ID
chuser core=-1 core_hard=-1 admin_user_ID
```

- c. *admin_user_ID* としてログインします。
- d. エンタープライズ・サーチ・システムを再開します。

```
esadmin system stopall
esadmin system startall
```

2. Linux で無制限値を設定または検証するには、次のようにします。
 - a. root ユーザーとしてログインします。
 - b. `/etc/security/limits.conf` ファイルを編集して、次の値を指定します。

```
admin_user_ID soft nofile 32768
admin_user_ID hard nofile 65536
admin_user_ID soft fsize unlimited
admin_user_ID hard fsize unlimited
admin_user_ID soft data unlimited
admin_user_ID hard data unlimited
admin_user_ID soft stack unlimited
admin_user_ID hard stack unlimited
admin_user_ID soft rss unlimited
admin_user_ID hard rss unlimited
admin_user_ID soft core unlimited
admin_user_ID soft core unlimited
```

- c. *admin_user_ID* としてログインします。
- d. エンタープライズ・サーチ・システムを再開します。

```
esadmin system stopall
esadmin system startall
```

3. Solaris で無制限値を設定または検証するには、次のようにします。
 - a. root ユーザーとしてログインします。
 - b. `/etc/profile` ファイルを編集して、このファイルに無制限値を設定するどのコマンドも含まれないようにします。
 - c. 次のコマンドを `/etc/profile` ファイルの終わりに追加します。

```
ulimit -nH 65536
ulimit -nS 32768
ulimit -s 2097152
ulimit -c 8388608
```

- d. 変更を検証するには、もう一度 root ユーザーとしてログインします。次のコマンドを実行して、結果が予想通りであるかを検証します。

```
# ulimit -aH
time(seconds) unlimited
file(blocks) unlimited
data(kbytes) unlimited
stack(kbytes) unlimited
coredump(blocks) unlimited
nofiles(descriptors) 65536
```

```
memory(kbytes) unlimited
```

```
# ulimit -aS  
time(seconds) unlimited  
file(blocks) unlimited  
data(kbytes) unlimited  
stack(kbytes) unlimited  
coredump(blocks) unlimited  
nofiles(descriptors) 32768  
memory(kbytes) unlimited
```

- e. *admin_user_ID* としてログインし、ES_NODE_ROOT/nodeinfo/esprofile ファイルを編集して、無限値を設定するコマンドをすべて除去します。
- f. 変更を検証するには、もう一度 *admin_user_ID* としてログインします。次のコマンドを実行して、結果が予想通りであるかを検証します。

```
$ ulimit -aH  
time(seconds) unlimited  
file(blocks) unlimited  
data(kbytes) unlimited  
stack(kbytes) unlimited  
coredump(blocks) unlimited  
nofiles(descriptors) 65536  
memory(kbytes) unlimited
```

```
$ ulimit -aS  
time(seconds) unlimited  
file(blocks) unlimited  
data(kbytes) unlimited  
stack(kbytes) unlimited  
coredump(blocks) unlimited  
nofiles(descriptors) 32768  
memory(kbytes) unlimited
```

- g. エンタープライズ・サーチ・システムを再開します。

```
esadmin system stopall  
esadmin system startall
```

関連タスク

47 ページの『インストール後の作業』

公開 Web サイトにアクセスするためのインフォメーション・センターのセットアップ

OmniFind Enterprise Edition インフォメーション・センターは、自動的にインストールされます。インストール済みバージョンの代わりに、公開 IBM Web サイト上のインフォメーション・センターにアクセスする場合は、es.cfg ファイルを編集する必要があります。

公開 IBM Web サイト上で使用可能なバージョンにのみアクセスできるようにインフォメーション・センターをセットアップするには、次のようにします。

1. エンタープライズ・サーチ管理者としてログインします。 マルチサーバー・インストールの場合、索引サーバーでログインします。
2. テキスト・エディターで ES_NODE_ROOT/nodeinfo/es.cfg ファイルを開きます。
3. 行 DB2ICDocs4ES で、値を http¥://publib.boulder.ibm.com/infocenter/discover/v8r5m0/ に設定します。 例えば次のとおりです。

```
DB2ICDocs4ES=http¥://publib.boulder.ibm.com/infocenter/discover/v8r5m0/
```

4. エンタープライズ・サーチ・システムを再開します。

```
esadmin system stopall  
esadmin system startall
```

関連タスク

47 ページの『インストール後の作業』

59 ページの『インフォメーション・センターの開始と停止』

関連資料

 [エンタープライズ・サーチの資料](#)

コレクション・データの CIFS ドライブへのマッピング

Windows では、CIFS (Common Internet File System) ネットワーク・ドライブを使用してエンタープライズ・サーチのコレクション・データを保管するように、システムを構成できます。

このタスクについて

コレクション・データを複数の場所に振り分ける場合、エンタープライズ・サーチ用の環境変数を作成し、使用する共有 CIFS ネットワーク・ドライブをマップできます。

制約事項

- エンタープライズ・サーチの管理者 ID でネットワーク・ドライブにアクセスできるようにします。エンタープライズ・サーチの管理者が対話式にログインしていない場合でも、ネットワーク・ドライブをアクセス可能な状態にしておいてください。
- マルチサーバー・インストールでは、それぞれのエンタープライズ・サーチ・サーバーが同じネットワーク・ドライブ文字を使用する必要がありますが、物理的にはそれぞれ異なる場所にマップしなければなりません。それぞれのエンタープライズ・サーチ・サーバーを物理的に同じ場所にマップすることはできません。
- 構成できるマップ済みドライブの数は、使用するオペレーティング・システムによって制限されています。
- マップ済みドライブ名には、既存のものとは重複しない文字を指定する必要があります。つまり、高密度ドライブや CD-ROM ドライブなどの物理デバイスで既に使用しているドライブ名は、使用しないでください。
- エンタープライズ・サーチ用にマップしたドライブは、エンタープライズ・サーチ管理者がログインしても表示されません。
- 汎用命名規則 (UNC) パスには、最後に円記号 (¥) 文字を使用しないでください。
- 一部の CIFS ドライブでは、インストールされている Windows、CIFS サーバー、Network Attached Storage (NAS) 製品のバージョンによっては、コレクション・データをマップできない場合もあります。

手順

コレクション・データの保管用に CIFS ネットワーク・ドライブをマップする場合、エンタープライズ・サーチのインストール後に次の手順に従ってください。マルチサーバー構成では、すべてのエンタープライズ・サーチ・サーバーで次の手順を繰り返します。

1. 次のシステム環境変数を作成します。

```
ES_MAP_DRIVE=drive_letter:UNC_path [;drive_letter:UNC_path ...]
```

ここで

drive_letter

マップするネットワーク・ドライブ名を指定します。

UNC_path

コレクション・データを保管するために使用されるパスを指定します (例えば ¥¥jcenterprises¥directory1)。

複数のネットワーク・ドライブをマップする場合は、セミコロン (;) を入力し、その後に追加のドライブ名と UNC パス・ステートメントを入力します。次の例では、2 つのドライブ名にマップされる 2 つのディレクトリー・パスを示しています。

```
ES_MAP_DRIVE=T:¥¥jcenterprises1¥esdata;U:¥¥jcenterprises2¥esdata
```

2. コンピューターを再始動します。

例:

正しい操作: 異なるサーバーが異なる物理的場所にマップされます。

索引サーバー: ES_MAP_DRIVE=T:¥¥server1¥dir1

検索サーバー: ES_MAP_DRIVE=T:¥¥server1¥dir2

正しい操作: 異なるサーバーが同じ最上位パスですが、異なるサブディレクトリーにマップされます。

索引サーバー: ES_MAP_DRIVE=T:¥¥server1¥dir1¥esdata1

検索サーバー: ES_MAP_DRIVE=T:¥¥server1¥dir1¥esdata2

間違った操作: 異なるサーバーが同じ物理的場所にマップされます。

索引サーバー: ES_MAP_DRIVE=T:¥¥server1¥dir1

検索サーバー: ES_MAP_DRIVE=T:¥¥server1¥dir1

間違った操作: 異なるサーバーが同じ物理パスを共有します。

索引サーバー: ES_MAP_DRIVE=T:¥¥server1¥dir1

検索サーバー: ES_MAP_DRIVE=T:¥¥server1¥dir1¥dir2

関連タスク

47 ページの『インストール後の作業』

エンタープライズ・サーチ・システムの開始

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用してコレクションを作成する前に、一部のプロセスまたはサービスがバックグラウンドで実行されていない場合、またはファースト・ステップ・プログラムでエンタープライズ・サーチ・システムを開始していない場合は、それらを開始する必要があります。

制約事項

エンタープライズ・サーチ・システムを開始するには、エンタープライズ・サーチ管理者である必要があります。ユーザー・アカウントは、ローカル認証で認証できるものにする必要があります。システムを Andrew File System (AFS®) のアカウントで始動させようとするエラーが発生します。

手順

エンタープライズ・サーチ・システムを開始するには、次のようにします。

1. エンタープライズ・サーチを 2 サーバー構成または 4 サーバー構成としてインストールした場合、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインし、それぞれのサーバー上の共通通信層 (CCL) を開始します。

AIX、Linux、または Solaris

```
startccl.sh -bg
```

Windows のコマンド・プロンプト

```
startccl
```

Windows サービス管理ツール

バックグラウンドで CCL を開始するには、次のようにします。

- a. Windows サービスの起動: 「スタート」 → 「プログラム」 → 「管理ツール」 → 「サービス」と進みます。
 - b. 「IBM OmniFind Enterprise Edition」を右クリックし、「開始」をクリックします。
2. エンタープライズ・サーチ・システムのコンポーネントを開始します。
 - a. エンタープライズ・サーチ管理者として任意のエンタープライズ・サーチ・サーバーにログインします。
 - b. システムのコンポーネントをすべて開始します。 `esadmin system startall`

このコマンドは以下のプロセスとアプリケーションを開始します。

- CCL がまだ実行されていない場合は、コマンドを実行したコンピューターの CCL
- エンタープライズ・サーチのデータベース・ネットワーク・サーバー
- 索引サーバー上の ESAdmin セッション
- Web サーバー (マルチサーバー構成の場合、Web サーバーは両方の検索サーバーで開始されます)

- WebSphere Application Server での ESSearchServer および ESAdmin アプリケーション (マルチサーバー構成の場合、アプリケーションは両方の検索サーバーで開始されます)
 - エンタープライズ・サーチのインフォメーション・センター (マルチサーバー構成の場合、インフォメーション・センターは両方の検索サーバーで開始されます)
3. ブラウザーを開き、以下の URL を入力してエンタープライズ・サーチの管理コンソールを開始します。*hostname* には、検索サーバーの内の 1 つのホスト名を入れます。

`http://hostname/ESAdmin/`

4. エンタープライズ・サーチ管理者としてエンタープライズ・サーチの管理コンソールにログインします。


管理コンソールの使用についての詳細は、オンライン・ヘルプを参照してください。管理用の資料を表示するには、インフォメーション・センターを開始するか、ES_INSTALL_ROOT/docs/locale/pdf ディレクトリーに移動して、iiysa.pdf ファイルを開きます。

関連タスク

『ファースト・ステップ・プログラムの開始』

59 ページの『インフォメーション・センターの開始と停止』

関連資料

 [エンタープライズ・サーチ・システムの停止](#)

ファースト・ステップ・プログラムの開始

OmniFind Enterprise Edition のインストール後、ファースト・ステップ・プログラムを使用して、エンタープライズ・サーチ・システムを開始したり、インストールを検証したり、文書を開いたりできます。

ファースト・ステップは、インストール・プログラムの最後のウィンドウでチェック・ボックスを選択するか、コマンドを実行して開始できます。ファースト・ステップを開始するためのコマンドは、ES_INSTALL_ROOT/bin ディレクトリーにあります。

手順

1. ファースト・ステップを以下のように開始します。
 - AIX, Linux または Solaris では、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインし、以下のコマンドを入力します。*display_server_host_name:0.0* には、ファースト・ステップを実行するために使用しているシステムのホスト名を入れます。

```
export DISPLAY=display_server_host_name:0.0
firststep.sh
```
 - Windows では、「スタート」メニューで「ファースト・ステップ」ショートカットをクリックするか、ES_INSTALL_ROOT\bin ディレクトリーにある firststep.bat ファイルをダブルクリックします。

2. エンタープライズ・サーチ・システムを開始するには、「**サーバーの開始**」をクリックします。 状況報告を参照して、すべてのコンポーネントが開始されたことを確認できます。システムを開始してからでないと、インストールを検証したり、文書を表示したり、管理コンソールまたは検索アプリケーションを開始したりできません。
3. インストールを検証するには、「**インストール検査**」をクリックします。 メッセージによって、それぞれの操作が成功したかがわかります。
4. オプション: 製品資料の表示、管理コンソールの開始、サンプル検索アプリケーションの開始を行うオプションを選択することもできます。 今回初めて管理コンソールを開始する場合や、追加の管理ユーザーをまだ構成していない場合、OmniFind Enterprise Edition のインストール時に指定したエンタープライズ・サーチ管理者 ID でログインします。

関連タスク

57 ページの『エンタープライズ・サーチ・システムの開始』

インフォメーション・センターの開始と停止

オンライン・ヘルプを使用する前に、インフォメーション・センターが使用できるようにしておく必要があります。

このタスクについて

インフォメーション・センターには、OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 の資料があります。

一般的に、インフォメーション・センターは、エンタープライズ・サーチ・システムが開始されると、開始されます。**esadmin system startall** コマンドによって、エンタープライズ・サーチ・サーバーのコンポーネントが開始される時に、Web サーバーとインフォメーション・センターが開始されます。他のエンタープライズ・サーチのコンポーネントを停止および再開せずにインフォメーション・センターの停止および開始をする必要がある場合は、この手順に記されるコマンドを使用します。例えば次のとおりです。

- エンタープライズ・サーチ・システムの始動時、またファースト・ステップ・アプリケーションからの始動時に、インフォメーション・センターが開始していない場合、デフォルトのインフォメーション・センター・ポート 8888 との競合がないかどうか判断してください。ポート 8888 が別のプロセスで使用中的の場合、インフォメーション・センターの始動スクリプトを編集し、異なるポートを指定してからインフォメーション・センターを開始する必要があります。
- 管理コンソールまたはサンプル検索アプリケーションで「**ヘルプ**」をクリックしても、ヘルプが表示されない場合は、必要のない構成ファイルを除去して、インフォメーション・センターを再開する必要があります。

マルチサーバー・インストールの場合は、インフォメーション・センターは両方の検索サーバーにインストールされているので、両方のサーバーのインフォメーション・センターを停止および開始する必要があります。

この手順に記されるコマンドでは、エンタープライズ・サーチのインストール・ディレクトリを表すのに **ES_INSTALL_ROOT** を使用します。デフォルトのインストール・パスは、以下の通りです。

AIX: /usr/IBM/es
Linux: opt/IBM/es
Solaris: opt/IBM/es
Windows: C:¥Program Files¥IBM¥es

手順

次の手順に従って、インフォメーション・センターを一度停止してから、再始動します。マルチサーバー・インストールでは、両方の検索サーバーでこの手順を実行します。

1. エンタープライズ・サーチ・システムの始動時、またはファースト・ステップ・アプリケーションからの始動時に、インフォメーション・センターが開始していない場合、インフォメーション・センターで使用されるポートが別のプロセスで使用されていないことを確認してください。

- a. 次のファイルを編集します。

AIX、Linux、および Solaris

```
ES_INSTALL_ROOT/WebSphereIIIInformationCenter/ibm_help/IC_start.sh
```

Windows

```
ES_INSTALL_ROOT¥WebSphereIIIInformationCenter¥ibm_help¥  
IC_start.bat
```

- b. **-port** パラメーターを 8888 から使用中でないポートに変更します。
 - c. ステップ 3 に進み、インフォメーション・センターを始動します。
2. 「ヘルプ」をクリックしてもヘルプが表示されない場合、次の手順を実行する必要があります。
 - a. インフォメーション・センターを停止するには、以下のコマンドを入力します。

AIX、Linux、および Solaris

```
cd $ES_INSTALL_ROOT/WebSphereIIInformationCenter/ibm_help  
./IC_end.sh
```

Windows

```
cd %ES_INSTALL_ROOT%¥WebSphereIIInformationCenter¥ibm_help  
IC_end.bat
```

- b. config.ini ファイル以外のすべてのファイルを ES_INSTALL_ROOT/
WebSphereIIInformationCenter/ibm_help/eclipse/configuration ディレク
トリーから除去します。
 - c. ステップ 3 に進み、インフォメーション・センターを始動します。
3. 次のコマンドを入力して、インフォメーション・センターを開始します。 イン
フォメーション・センターの開始後、確認メッセージが表示されることはありません。

AIX、Linux、および Solaris

バックグラウンドで稼働するように、インフォメーション・センターを開始できます。

```
cd $ES_INSTALL_ROOT/WebSphereIIIInformationCenter/ibm_help  
/bin/nohup ./IC_start.sh &
```

Windows

```
cd %ES_INSTALL_ROOT%\WebSphereIIInformationCenter\ibm_help  
IC_start.bat
```

インフォメーション・センターを開始した後、コマンド・ウィンドウを閉じたり、セッションからログオフすることはできません。インフォメーション・センターをバックグラウンドで開始したい場合は、

IC_start.bat を Windows タスクとして登録してから、Windows 機能を使用してインフォメーション・センターをバックグラウンド・タスクとして開始することができます。Windows タスクのスケジューリングについて詳しくは、<http://support.microsoft.com/kb/814596/en>および

<http://technet.microsoft.com/en-us/library/bb490996.aspx>を参照してください。

4. インフォメーション・センターが開始済みであることを調べるには、Web ブラウザーを開いて、以下の URL にアクセスします。この場合、*port* は、インフォメーション・センターの始動スクリプトに指定されたポートです。

```
http://localhost:port
```

トラブルシューティング:

Windows では、ファースト・ステップ・プログラムでエンタープライズ・サーチ・システムを開始しようとする、次のエラーが表示される場合があります。

```
FFQC5387W 検索サーバーのインフォメーション・センターにアクセスできません。  
{search_server} 上のインフォメーション・センターが稼働していません。  
FFQC5395E 必要なシステム・サービスで稼働していないものが 1 つ以上あります。
```

エラーおよび警告メッセージを検討し、開始されていないサービスおよび問題の詳細について確認してください。追加情報については、ログ・ファイル

`%ES_NODE_ROOT%\logs\trace\startstatus.log` を参照してください。ほとんどの場合、上記の手順に従って、コマンド行からインフォメーション・センターを開始する必要があります。

関連タスク

57 ページの『エンタープライズ・サーチ・システムの開始』

関連資料

 [エンタープライズ・サーチの資料](#)

エンタープライズ・サーチの除去

エンタープライズ・サーチは、除去プログラムをグラフィック・モード、テキスト・モード、またはサイレント・モードで使用して除去できます。

将来のインストールでエンタープライズ・データを使用する計画がある場合は、エンタープライズ・サーチ・コンポーネントを除去する前に、必ずシステムをバックアップしておいてください。

関連概念



エンタープライズ・サーチ・システムのバックアップとリストア

関連タスク

『AIX、Linux、および Solaris システムからのエンタープライズ・サーチの除去』

64 ページの『Windows システムからのエンタープライズ・サーチの除去』

AIX、Linux、および Solaris システムからのエンタープライズ・サーチの除去

除去プログラムは、WebSphere Application Server 内の Web アプリケーションも含めて、エンタープライズ・サーチ・コンポーネントを除去します。

エンタープライズ・サーチは、グラフィック・モード、テキスト・モード、またはサイレント・モードを使用して除去できます。

重要: ES_NODE_ROOT データ・ディレクトリーの外にコレクションを作成している場合、除去プロセスはこれらのコレクションを削除しません。デフォルト・ディレクトリー以外のディレクトリーからデータを削除しません。これらの他のディレクトリーは、製品を除去したあと、手動で削除する必要があります。

サイレント・モードでは、エンタープライズ・サーチを除去する各サーバーで応答ファイルを使用します。例えば、次のコマンドを実行します。ここで、デフォルトの *response_file_name* は、*uninstall.rsp* ファイルです。

```
./uninstall.bin -silent -options response_file_name
```

手順

グラフィックの除去プログラムを使用してエンタープライズ・サーチを除去するには、次のようにします。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. ES_INSTALL_ROOT インストール・ディレクトリーの中の *_uninst* ディレクトリーに移動します。
3. *./uninstall.bin* を入力します。
4. 除去プログラムが開始したあと、「次へ」をクリックして、エンタープライズ・サーチを除去します。

5. オプション: エンタープライズ・サーチ・データを除去する場合は、「すべてのデータおよび構成ファイルを除去」オプションを選択します。このオプションを選択すると、すべてのエンタープライズ・サーチ・データ、システム構成ファイル、およびエンタープライズ・サーチ・データベースがクローラー・サーバーから除去されます。
6. オプション: オペレーティング・システムからエンタープライズ・サーチ管理者 ID を手動で削除します。
7. エンタープライズ・サーチ・ソフトウェアがインストールされている各サーバーで 1 から 6 の手順を繰り返します。

関連タスク

63 ページの『エンタープライズ・サーチの除去』

Windows システムからのエンタープライズ・サーチの除去

除去プログラムは、WebSphere Application Server 内の Web アプリケーションも含めて、エンタープライズ・サーチ・コンポーネントを除去します。

Windows 上のエンタープライズ・サーチは、「プログラムの追加と削除」機能、またはエンタープライズ・サーチの除去プログラムを使用して除去できます。

また、エンタープライズ・サーチは、グラフィック・モード (最も一般的)、テキスト・モード、またはサイレント・モードを使用して除去できます。

重要: ES_NODE_ROOT データ・ディレクトリーの外にコレクションを作成した場合、除去プロセスはこれらのコレクションを削除しません。デフォルト・ディレクトリー以外のディレクトリーからデータを削除しません。これらの他のディレクトリーは、製品を除去したあと、手動で削除する必要があります。

サイレント・モードでは、エンタープライズ・サーチを除去する各サーバーで応答ファイルを使用します。例えば、次のコマンドを実行します。ここで、デフォルトの *response_file_name* は、`uninstall.rsp` ファイルです。

```
uninstall.exe -silent -options response_file_name
```

手順

グラフィックの除去プログラムを使用してエンタープライズ・サーチを除去するには、次のようにします。

1. ES_INSTALL_ROOT インストール・ディレクトリーの中の `_uninst` ディレクトリーにブラウズまたは移動します。
2. `uninstall.exe` ファイルをダブルクリックするか、`uninstall.exe` を入力します。
3. 除去プログラムが開始したあと、「次へ」をクリックして、エンタープライズ・サーチを除去します。
4. オプション: エンタープライズ・サーチ・データを除去する場合は、「すべてのデータおよび構成ファイルを除去」オプションを選択します。このオプションを選択すると、すべてのエンタープライズ・サーチ・データ、システム構成ファイル、およびエンタープライズ・サーチ・データベースがクローラー・サーバーから除去されます。

5. オプション: オペレーティング・システムからエンタープライズ・サーチ管理者 ID を手動で削除します。
6. コンピューターを再始動します。
7. エンタープライズ・サーチ・ソフトウェアがインストールされている各サーバーで 1 から 6 の手順を繰り返します。

関連タスク

63 ページの『エンタープライズ・サーチの除去』

インストールの問題のトラブルシューティング

インストールの問題には、前提ソフトウェアが正しくインストールされない (WebSphere Application Server が正しくインストール、構成されない)、スペース不足、サービスまたはプロセスが開始していないなどがあります。

インストールの間にスペース不足になった

エンタープライズ・サーチのインストール・プログラム実行中に、ディスク・スペース不足になった場合、インストール・プログラムの一時ディレクトリーを変更できます。

症状

一時ファイルをアンパックするためのディスク・スペースが十分がないので、インストール・プログラムが失敗します。

問題の解決

デフォルトの一時ディレクトリーに十分なスペースがない場合は、コマンド行からインストールを開始するときに次のパラメーターを追加して、より多くのスペースを持つ別のディレクトリーを使用します。

```
-is:tempdir directory
```

例えば、Windows 上で、次のコマンドを入力します。

```
install-win32.exe -is:tempdir d:%temp
```

インストール時に `ArrayIndexOutOfBoundsException` が発生

エンタープライズ・サーチのインストール・プログラムの実行時に、`ArrayIndexOutOfBoundsException` 例外が表示される場合があります。

症状

次の出力はこの例外の例です。

```
java.lang.ArrayIndexOutOfBoundsException: Array index out of range: 2
at java.util.Vector.remove(Vector.java(コンパイル済みコード))
at com.installshield.database.ConnectionPool.getConnection
(不明なソース)
at com.installshield.database.ConnectionManager.getConnection
(不明なソース)
at com.installshield.database.TransactionProcessor.connect
(不明なソース)
at com.installshield.database.TransactionProcessor.query
(不明なソース)
at com.installshield.database.SQLProcessor.queryIntegers
(不明なソース)
at com.installshield.database.designtime.ISControlEventDef.getActionSequence
(不明なソース)
at com.installshield.database.runtime.impl.ISBaseEventImpl.getActionSequence
(不明なソース)
```

```
at com.installshield.event.EventDispatcher.triggerEvent
(不明なソース)
at com.installshield.event.EventDispatcher$BackgroundEventThread.run
(不明なソース)
```

原因

この問題は、InstallShield プログラムがコンピューターにインストールされた製品を記録するために使用するデータベースの処理で発生しました。

問題の解決

この例外は、製品のインストールには影響がありません。この例外が発生しても、インストールは正常に完了するはずです。

AIX、Linux、および Solaris に前提ソフトウェアがインストールされたあとインストールが停止する

AIX、Linux、および Solaris オペレーティング・システムで、エンタープライズ・サーチ・インストール・プログラムは、前提ソフトウェア製品をインストールしたあとに無限ループに入った可能性があります。

症状

インストール・プログラムが前提ソフトウェアのサイレント・インストール後に開始し、エンタープライズ・サーチ・ソフトウェアのインストール前に停止しました。

原因

前提条件製品がインストールされたあと、Java™ ランタイム環境 (JRE) が一時ディレクトリーからインストール・ディレクトリーにコピーされません。

問題の診断

この問題が発生したかどうかを判別するために、エンタープライズ・サーチのインストール・ディレクトリー (例えば /opt/IBM/es) に進みます。_jvm というディレクトリーが存在し、それが空であるか、jre というディレクトリーしか含まれていなければ、この問題が発生しています。

問題の解決

無限ループを終わらせ、インストールを完了するには、次のようにします。

1. インストール・プログラムを停止し、実行中のプロセスが無いことを確認します。

ヒント: tempxxxxxx というプロセスが実行中場合があります。ここで xxxxxx は一連の乱数です。このプロセスが不必要なプロセッシングを作成している可能性があるため、これを強制終了します。

2. インストール・ルート・ディレクトリー (例えば /opt/IBM/es/_jvm) から _jvm ディレクトリーを除去します。

3. /tmp/esinstall.lockfile というファイルが存在すれば、除去します。これですべての前提ソフトウェアがインストールされます。
4. インストール・プログラムを再始動します。

Linux でのインストールが検証中に停止

Linux で、インストール・プログラムがインストールの検証を開始しようとしたときに、応答が停止しました。

症状

検証について説明するウィンドウが表示され、インストール・プログラムが応答を停止します。

原因

この問題は、umask および libstdc++ ライブラリーの検証により発生します。

問題の解決

この問題を解決するには、応答しなくなったインストール・プログラムを停止して、umask および libstdc++ ライブラリーを調べ、この検査がバイパスされる方法でインストール・プログラムを実行します。

1. 応答しなくなったインストール・プログラムをキャンセルします。
2. インストール・プログラムは、ファイル esinstall.lockfile を temp ディレクトリーに作成して、同時に複数のインストールが実行されないようにします。以後のインストールでエラー・メッセージが表示されないようにするには、このファイルを削除します。
3. もう一度使用許諾契約書を検討または受諾する必要がある場合、temp/license ディレクトリーを除去してから、インストール・プログラムを再始動します。使用許諾契約書は、このディレクトリーを除去しないかぎり、最初に受諾して以降は表示されません。
4. コマンド行から **umask** コマンドを実行します。インストールを正しく実行するには、インストール・プログラムで umask を 022 に設定する必要があります。
5. ご使用の Linux のバージョンに適合するコマンドを以下のように入力して、適切な libstdc++ ライブラリーがインストールされていることを検証します。

Red Hat Enterprise Linux Advanced Server 3.0

```
rpm -q libstdc++-3.2.3-34
```

Red Hat Enterprise Linux Advanced Server 4.0

```
rpm -q compat-libstdc++-33-3.2.3-47.3
```

SUSE Linux Enterprise Server 8.0

```
rpm -q libstdc++-3.2.2-38
```

SUSE Linux Enterprise Server 9.0

```
rpm -q libstdc++-3.3.3-43.24
```

6. インストール・プログラムをもう一度実行し、次のパラメーターを使って、インストール・プログラムが応答を停止する原因となる検証をバイパスします。

```
./install-linux.bin -W validateLibstdcLibraries.active="false" -W  
umaskTest.active="false"
```

Windows へのインストールまたは開始で問題がある

以下の問題は、Windows 上でのエンタープライズ・サーチのインストールまたは開始の失敗をもたらすことがあります。

症状

インストール・プログラムが正常に実行されないか、製品のインストール後にエンタープライズ・サーチ・システムが始動しません。

問題の解決

ユーザー権限が不十分

エンタープライズ・サーチをインストールするのに使用するユーザー ID およびエンタープライズ・サーチ管理者用に使用するユーザー ID に以下のユーザー権限があることを確認します。

- 「オペレーティング システムの一部として機能」
- 「メモリ内のページのロック」
- 「トークン オブジェクトの作成」
- 「プロセス レベル トークンの置き換え」
- 「認証後にクライアントを偽装」
- 割り当て量の増加 (Windows 2003 では、このオプションは「プロセスのメモリ クォータの増加」となっています。)
- サービスとしてログオン

ユーザー ID がドメインに属している場合は、ドメイン権限でこれらのユーザー権限を許可していることも確認します。例えば、ドメインは、オペレーティング・システムの一部として機能するという権限を許可せざるを得ません。

オペレーティング・システムのバージョンが間違っている

サポートされるオペレーティング・システムの Web サイト (OmniFind Enterprise Edition バージョン 8.5 のシステム要件) を確認してください。

Windows に WebSphere Application Server をインストールできない

新規 OmniFind Enterprise Edition システムおよびその必須ソフトウェアを Windows サーバーにインストールする際に、WebSphere Application Server のインストールが失敗します。

症状

OmniFind Enterprise Edition インストール・プログラムを使用して WebSphere Application Server をインストールした後で、エンタープライズ・サーチ・システムを始動しても、WebSphere Application Server が開始しません。

原因

エンタープライズ・サーチ・インストール・プログラムは、WebSphere Application Server コンポーネントを Windows サービスとして実行するかどうかを尋ねます。このサービスは、OmniFind Enterprise Edition を使用して WebSphere Application Server をインストールする場合にのみセットアップされます。

WebSphere Application Server コンポーネントをサービスとして実行する場合は、Windows サービスと関連付けられている WebSphere Application Server ユーザー ID に適切な管理権限とユーザー権限があることを確認してください。これらの権限は、管理者グループのユーザーに対して初めに付与されず、デフォルトで設定されていません。

ドメイン・ポリシーはローカル・ユーザー設定をオーバーライドします。ユーザー権限をユーザー ID に割り当てる前に、ドメイン・ポリシーで必要な権限のいずれも禁止されていないことを確認してください。例えば、ドメインでオペレーティング・システムの一部として機能する権限が禁止されている場合、ユーザー ID はその権限を禁止されます。

WebSphere Application Server コンポーネントを Windows サービスとして実行しない場合は、これらのユーザー権限は必要ありません。

問題の解決

適切な権限を指定するには、次のようにします。

1. 「コントロール パネル」 → 「ユーザー アカウント」とクリックします。
 - WebSphere Application Server ユーザー ID がこのコンピューターのアカウントである場合、アカウントを変更するオプションを選択します。アカウント・タイプで、ユーザー ID に管理者権限があることを確認してください。
 - WebSphere Application Server ユーザー ID がこのコンピューターのアカウントでない場合、アカウントを作成するオプションを選択します。ユーザー ID を追加して、アカウント・タイプで、ユーザー ID に管理者権限があることを確認してください。
2. 「コントロール パネル」 → 「管理ツール」 → 「ローカル セキュリティ ポリシー」 → 「ローカル ポリシー」 → 「ユーザー権利の割り当て」をクリックします。
3. ユーザー ID に以下の権限があることを確認します。
 - 「オペレーティング システムの一部として機能」
 - 「サービスとしてログオン」
4. 「コンピューターを再始動」

WebSphere Application Server がインストールされ、CD に関するプロンプトが表示される

エンタープライズ・サーチのインストール・プログラムを実行すると、WebSphere Application Server が既にインストール済みであっても、WebSphere Application Server CD または電子配布イメージの場所を指定するように求めるプロンプトが表示されます。

症状

インストール・プログラムは、WebSphere Application Server をインストールするか、既にインストールされているバージョンの WebSphere Application Server を使用できます。インストール済みのバージョンを使用するようにプログラムに指示したにも関わらず、WebSphere Application Server をインストールするためのソフトウェアの場所を指定するように要求するプロンプトが表示されます。

原因

インストール・プログラムは、WebSphere Application Server が既にインストール済みであるかどうかを判断します。時には、プログラムがほとんど空になっている古い WebSphere ディレクトリーを検出する場合があります (例えば、WebSphere Application Server が除去され、新規バージョンがインストールされた場合)。こうした場合、WebSphere ソフトウェアの一部またはすべてをインストールする必要があると、インストール・プログラムは判断します。

問題の解決

この問題を解決するには、次のようにします。

1. インストール・プログラムをキャンセルします。
2. これらの製品の除去後にも、古い WebSphere Application Server または IBM HTTP Server ディレクトリーがまだコンピューターに存在する場合、古いディレクトリーを削除します。
3. エンタープライズ・サーチのインストール・プログラムを再始動します。

WebSphere Application Server でエンタープライズ・サーチ・アプリケーションのセキュリティー上の役割が正しく設定されていない

一部のコンピューターで、エンタープライズ・サーチ Web アプリケーションが WebSphere Application Server で必要とするセキュリティー上の役割が正しく設定されていません。

症状

エンタープライズ・サーチ用に WebSphere Application Server が開始されると、この問題が「HTTP 403 Forbidden error」に至る可能性があります。

原因

OmniFind Enterprise Edition は、いくつかのアプリケーションを WebSphere Application Server にデプロイします。一部のコンピューターでは、前のインストー

ルでユーザーまたはグループに対して、セキュリティー上の役割「全員 (Everyone?)」および「認証済みの全員 (All authenticated?)」のマッピングを設定していても、それらの設定がクリアされます。この問題は、初期インストールで発生する可能性があり、またホット・フィックスのインストール時にも発生する可能性があります。

問題の解決

この問題を解決するには、WebSphere 管理コンソールを使用して役割を正しくマップします。

1. エンタープライズ・アプリケーションを構成して、ESSearchServer アプリケーションを選択します。
2. セキュリティー上の役割をユーザーおよびグループにマップするオプションを選択します。
3. 「全員 (Everyone?)」および「認証済みの全員 (All authenticated?)」チェック・ボックスを選択します。
4. 構成変更を保存します。

フィックスパックの除去プログラムを完了前にキャンセルする

除去処理が完了する前に、フィックスパックの除去プログラムが異常終了する場合があります。

症状

コンソール・モードを使用してフィックスパックを除去しようとしたときに、誤って Ctrl + C を押してしまいました。除去プログラムは異常終了します。

問題の解決

フィックスパックの除去を完了するには、次のようにします。

1. フィックスパックを再インストールします。
2. 正常終了したかどうか確認します。
3. 再インストールされたフィックスパックを除去します。

エンタープライズ・サーチの資料

OmniFind Enterprise Edition の資料は、PDF 形式または HTML 形式で読むことができます。

OmniFind Enterprise Edition のインストール・プログラムは、エンタープライズ・サーチ用資料の HTML バージョンを含むインフォメーション・センターを自動的にインストールします。複数のサーバーをインストールする場合は、インフォメーション・センターが両方の検索サーバーにインストールされます。インフォメーション・センターをインストールしなかった場合は、「ヘルプ」をクリックすると、IBM Web サイトのインフォメーション・センターが開きます。

PDF 文書を参照するには、ES_INSTALL_ROOT/docs/locale/pdf に移動します。例えば、英語の資料を見つけるには、ES_INSTALL_ROOT/docs/en_US/pdf に移動します。

使用可能なすべての言語の PDF バージョンの文書にアクセスするには、OmniFind Enterprise Edition Version 8.5 documentationサイトを参照してください。

製品ダウンロード、フィックスパック、技術情報、およびインフォメーション・センターには、OmniFind Enterprise Edition Support サイトからアクセスすることもできます。

以下の表は、使用可能な資料、ファイル名、ロケーションを示します。

表 2. エンタープライズ・サーチの資料

タイトル	ファイル名	場所
インフォメーション・センター		http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/discover/v8r5/
エンタープライズ・サーチ インストール・ガイド	iiysi.pdf	ES_INSTALL_ROOT/docs/locale/pdf/
クイック・スタート・ガイド (英語、フランス語、および日 本語ではハードコピー版も用 意されています。)	OmniFindEE850_qsg_ locale を表す 2 文字 .pdf	ES_INSTALL_ROOT/docs/locale/pdf/
エンタープライズ・サーチの 管理	iiysa.pdf	ES_INSTALL_ROOT/docs/locale/pdf/
Programming Guide and API Reference for Enterprise Search	iiysp.pdf	ES_INSTALL_ROOT/docs/en_US/pdf/
トラブルシューティング・ガ イドおよびメッセージ	iiysm.pdf	ES_INSTALL_ROOT/docs/locale/pdf/
テキスト分析機能ガイド	iiyst.pdf	ES_INSTALL_ROOT/docs/locale/pdf/
Google デスクトップ検索用 プラグイン	iiysg.pdf	ES_INSTALL_ROOT/docs/locale/pdf/

アクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害や視覚障害といった身体的障害を持つユーザーが IT 製品を快適に使用できるように支援するものです。

IBM は、年齢や能力にかかわらず誰もが使用できる製品を提供するように努めております。

アクセシビリティ機能

OmniFind Enterprise Edition における主要なアクセシビリティ機能は次のとおりです。

- キーボードのみの操作
- スクリーン・リーダー (読み上げソフトウェア) が通常使用するインターフェース

OmniFind Enterprise Edition のインフォメーション・センターと関連資料はアクセシビリティ対応になっています。このインフォメーション・センターのアクセシビリティ機能の説明は http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/discover/v8r5m0/topic/com.ibm.classify.nav.doc/dochome/accessibility_info.htm にあります。

キーボード・ナビゲーション

この製品では、標準的な Microsoft® Windows ナビゲーション・キーを使用します。

さらに、以下のキーボード・ショートカットを使用して、OmniFind Enterprise Edition インストール・プログラム内をナビゲートすることができます。

表3. インストール・プログラム用キーボード・ショートカット

アクション	ショートカット
ラジオ・ボタンの強調表示	矢印キー
ラジオ・ボタンの選択	タブ・キー
プッシュボタンの強調表示	タブ・キー
プッシュボタンの選択	Enter キー
次のウィンドウまたは前のウィンドウへ移動、またはキャンセル	タブ・キーを押してプッシュボタンを強調表示し、Enter キーを押す
アクティブ・ウィンドウを非アクティブにする	Ctrl + Alt + Esc

インターフェース情報

管理コンソール、サンプル検索アプリケーション、および検索アプリケーション・カスタマイザーのユーザー・インターフェースは、Microsoft Internet Explorer または Mozilla FireFox で表示できる、ブラウザー・ベースのインターフェースです。ブラウザーのキーボード・ショートカットのリストおよび他のアクセシビリティ機能については、Internet Explorer または FireFox のオンライン・ヘルプを参照してください。

関連するアクセシビリティ情報

Adobe Acrobat Reader を使用すれば、OmniFind Enterprise Edition の資料を、Adobe PDF で表示できます。これらの PDF は、本製品と同梱の CD に収録されていますが、<http://www.ibm.com/support/docview.wss?rs=63&uid=swg27010938> でアクセスすることもできます。

IBM とアクセシビリティ

IBM のアクセシビリティに対する取り組みの詳細については、IBM Human Ability and Accessibility Center を参照してください。

特記事項および商標

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711

東京都港区六本木 3-2-12

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
J46A/G4
555 Bailey Avenue
San Jose, CA 95141-1003
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。

す。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この製品には次のものが含まれています。

- Oracle® Outside In Content Access, Copyright © 1992, 2008, Oracle. All rights reserved.
- IBM XSLT Processor Licensed Materials - Property of IBM © Copyright IBM Corp., 1999-2008. All Rights Reserved.

商標

IBM の商標については、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> を参照してください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Adobe、PostScript は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アップグレード

- エンタープライズ・サーチ 23
- 計画 23
- WebSphere Application Server 5.1.1 24
- WebSphere Application Server 5.1.1.3 24
- WebSphere Application Server 6.0.2 24

インストール

- 概要 1, 27
- クローラー・コンポーネント, 2 サーバー構成 31
- クローラー・コンポーネント, 4 サーバー構成 40
- 検索コンポーネント, 2 サーバー構成 31, 34
- 検索コンポーネント, 4 サーバー構成 41
- 索引コンポーネント, 2 サーバー構成 31
- 索引コンポーネント, 4 サーバー構成 44
- シングル・サーバー 28
- シングル・サーバーの概要 27
- 方法 17
- 2 サーバーの概要 21
- 4 サーバーの概要 37
- 4 つのサーバー 37
- DB2 Enterprise Server 50
- インストール概要 27
- シングル・サーバー 27
- 2 つのサーバー 31
- 4 つのサーバー 37
- インストール後の作業 47
- インフォメーション・センター URL 53
- クローラーのセットアップ要件 48
- CIFS ドライブ構成 54
- Windows サービス構成 47
- インストール順序
- 必要なソフトウェア, 2 つのサーバー 31
- 必要なソフトウェア, 4 つのサーバー 37

インストール方法

- グラフィック 17
- コンソール・モード 17
- サイレント 17
- テキスト・モード 17
- インストール・ディレクトリー 12
- インストール・フォーム 15
- インフォメーション・センター
- 開始 59
- 公開 Web サイトへのアクセス 53
- 停止 59
- デフォルト・ポート 59
- エンタープライズ・サーチ
- アップグレード 23
- WebSphere Application Server 5.1.1 24
- WebSphere Application Server 5.1.1.3 24
- WebSphere Application Server 6.0.2 24
- 開始 57
- システム図 4
- AIX, Linux, および Solaris からの除去 63
- Windows から除去 64
- エンタープライズ・サーチ管理者 ID 13
- エンタープライズ・サーチ管理者パスワード
- 制限 13
- 特殊文字 13
- エンタープライズ・サーチのインストール
- 概要 1, 27
- シングル・サーバー 27, 28
- 2 つのサーバー 31
- 4 つのサーバー 37
- エンタープライズ・サーチのインストール・ディレクトリー 12
- エンタープライズ・サーチのデータ・ディレクトリー 12
- エンタープライズ・サーチ用 HTML 資料 75
- エンタープライズ・サーチ用 PDF 資料 75
- 応答ファイル
- サイレント・インストール 19
- テンプレート 19
- AIX 19
- Linux 19
- Solaris 19
- Windows 19

オペレーティング・システム 準備 7

[カ行]

開始

- インフォメーション・センター 59
- エンタープライズ・サーチ 57
- ファースト・ステップ 58
- 管理者 ID 13
- 管理者パスワード
- 制限 13
- 特殊文字 13
- グラフィック・インストール 17
- クローラーのセットアップ要件 48
- クローラー・コンポーネント
- シングル・サーバー方式 4
- シングル・サーバー・インストール 28
- 2 サーバー方式 4
- 2 サーバー・インストール 31
- 4 サーバー方式 4, 37
- 4 サーバー・インストール 40
- クローラー・サーバー
- シングル・サーバー方式 4
- シングル・サーバー・インストール 28
- 2 サーバー方式 4
- 2 サーバー・インストール 31
- 4 サーバー方式 4, 37
- 4 サーバー・インストール 40
- クローラー・スクリプト 48
- 検索コンポーネント
- シングル・サーバー方式 4
- シングル・サーバー・インストール 28
- 2 サーバー方式 4
- 2 サーバー・インストール 31, 34
- 4 サーバー方式 4
- 4 サーバー・インストール 41
- 検索サーバー
- シングル・サーバー方式 4
- シングル・サーバー・インストール 28
- 2 サーバー方式 4
- 2 サーバー・インストール 31, 34
- 4 サーバー方式 4
- 4 サーバー・インストール 41
- コレクション・データの保管, CIFS ドライブ 54
- コンソール・インストール 17

[サ行]

- サイレント・インストール 17
 - 応答ファイル 19
 - テンプレート 19
 - AIX 19
 - Linux 19
 - Solaris 19
 - Windows 19
- 索引コンポーネント
 - シングル・サーバー方式 4
 - シングル・サーバー・インストール 28
 - 2 サーバー方式 4
 - 2 サーバー・インストール 31
 - 4 サーバー方式 4
 - 4 サーバー・インストール 44
- 索引サーバー
 - シングル・サーバー方式 4
 - シングル・サーバー・インストール 28
 - 2 サーバー方式 4
 - 2 サーバー・インストール 31
 - 4 サーバー方式 4
 - 4 サーバー・インストール 44
- 小規模メモリー・モデル 6
- 除去
 - AIX、Linux、および Solaris システムのエンタープライズ・サーチ 63
 - Windows のエンタープライズ・サーチ 64
- 資料
 - 検索 75
 - HTML 75
 - PDF 75
- シングル・サーバー・インストール
 - 概要 27
 - クローラー・コンポーネント 28
 - 検索コンポーネント 28
 - 索引コンポーネント 28
 - 方式 4
- [夕行]
- 大規模メモリー・モデル 6
- 中規模メモリー・モデル 6
- データ・ソース
 - クローラーのセットアップ要件 48
 - Content Edition コネクタ 11
- データ・ディレクトリー 12
- テキスト・モード・インストール 17
- 登録
 - DB2 Enterprise Server 50
- トラブルシューティング
 - インストールが停止 68
 - インストール・スペース 67

- トラブルシューティング (続き)
 - フィックスバックの除去 73
- JRE 68
- temp ディレクトリー 67
- WebSphere Application Server ID 70
- WebSphere Application Server のセキュリティ上の役割 72
- WebSphere のセキュリティ上の役割 72
- Windows ユーザー権限 70

[ナ行]

- ネットワーク・ドライブ、マッピング 54

[ハ行]

- 必要なソフトウェア
 - インストールの順序、2 つのサーバー 31
 - インストールの順序、4 つのサーバー 37
- ファースト・ステップ、開始 58
- フィックスバックの除去、トラブルシューティング 73
- 方式
 - シングル・サーバー 4
 - 2 つのサーバー 4
 - 4 つのサーバー 4
- 本製品のアクセシビリティ機能 77

[マ行]

- 無限値 51
- メモリー・モデル、説明 6

[ヤ行]

- ユーザー権限
 - インストールのユーザー ID 9
 - エンタープライズ・サーチ管理者 ID 13
 - WebSphere Application Server ID 9, 70
 - Windows 管理者 70

[数字]

- 2 サーバー・インストール
 - 概要 31
 - クローラー・コンポーネント 31
 - 検索コンポーネント 31, 34
 - 索引コンポーネント 31
 - 方式 4

- 4 サーバー・インストール
 - 概要 37
 - クローラー・コンポーネント 40
 - 検索コンポーネント 41
 - 索引コンポーネント 44
 - 方式 4

A

- AIX
 - インストールの準備 8
 - 保守レベル 8
 - 無限値 51
 - EXTSHM 環境変数 8

C

- CIFS ドライブ、マッピング 54
- Content Edition コネクタ 11
- Content Edition のコネクタ 11

D

- DB2 Enterprise Server
 - インストール 50
 - ライセンス・キー 50
- db2ese_o.lic.txt ファイル 50
- db2licm コマンド 50

E

- esinstall.lockfile ファイル 68
- es.cfg ファイル 53
- ES_MAP_DRIVE 環境変数 54
- EXTSHM、AIX 環境変数 8

F

- firststep.bat コマンド 58
- firststep.sh コマンド 58

I

- IC_end コマンド 59
- IC_start コマンド 59

L

- Linux
 - 無限値 51

S

Solaris

- インストールの準備 9
- パッチの確認 9
- 無限値 51
- SPARC パッチ 9

T

- tempdir パラメーター 67

W

WebSphere Application Server 5.1.1

- 移行 24
- 除去 24

WebSphere Application Server 5.1.1.3

- 移行 24
- 除去 24

WebSphere Application Server 6.0.2

- 移行 24
- 除去 24

Windows

- インストールの準備 9
- サービス 9
- サービス構成 47

Windows サービス 9

Windows ユーザー権限

- インストールのユーザー ID 9
- エンタープライズ・サーチ管理者 70
- エンタープライズ・サーチ管理者
ID 13
- エンタープライズ・サーチのインストール 70

- WebSphere Application Server ID 9,
70

IBM



GD88-6373-04



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12